

様式第4号 (第5条関係)

政務活動費収支報告書

平成 31 年 4 月 1 日

盛岡市議会議長

天 沼 久 純 様

議員氏名 小林 正信



盛岡市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項および第2項の規定により平成30年度の政務活動費の収入及び支出について別紙のとおり報告します。



別紙

1 収支の状況

項 目		金 額	主な実施事業内容
収入	政務活動費 ①	600,000 円	
支 出	調査研究費	112,540 円	先進地視察の実施
	研修費	43,480 円	市政調査会拠出金、臨時研修会旅費等
	広報費	421,290 円	市民に対する議員活動広報紙の発行
	広聴費	円	
	会議費	円	
	資料作成費	円	
	資料購入費	円	
	人件費	円	
	事務所費	円	
	支出合計 ②	577,310 円	
差引残余 ①-②	22,690 円		

政務活動費出納簿

【平成30年度分】

(単位：円)

年月日	内容	収入額	支出額	政務活動費経費内訳									
				調査 研究費	研修費	広報費	広聴費	会議費	資料 作成費	資料 購入費	人件費	事務所費	
H30.4.10	政務活動費交付金	300,000											
H30.7.12	広報No.9作成委託費		30,000			30,000							
H30.7.12	広報No.9印刷経費		69,120			69,120							
H30.7.20	市政調査会拠出金		5,000		5,000								
H30.10.10	政務活動費交付金	300,000											
H30.10.20	広報No.10作成委託費		30,000			30,000							
H30.10.22	広報No.10印刷経費		74,520			74,520							
H30.11.2	会派視察交通費及び 宿泊料		111,540	111,540									
H30.11.14	資料代		1,000	1,000									
H31.1.16	市政調査会臨時研修 会旅費		29,480		29,480								
H31.1.16	市政調査会拠出金		9,000		9,000								
H31.2.19	広報No.11作成委託費		30,000			30,000							
H31.3.1	広報No.11印刷経費		68,040			68,040							
H31.3.1	広報No.11ポスティング 経費		18,954			18,954							
H31.3.28	広報No.12印刷経費		100,656			100,656							
	経費小計			112,540	43,480	421,290							
	合計額	600,000	577,310							差引残余額		22,690	

政務活動費支出簿

使途項目	調査研究費
------	-------

支出年月日	支出金額	摘 要	備考
H30.11.2	111,540 円	会派視察交通費及び宿泊費	
H30.11.14	1,000 円	資料代	
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
合計	112,540 円		

政務活動費支払伝票

使途項目	調査研究費	支出日	11月2日
------	-------	-----	-------

支出証拠書類の額面金額	111,540	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	111,540	円

【支払概要】 会派視察交通費及び宿泊
 航空券代 仙台～博多、福岡～羽田
 新幹線・電車代 盛岡～仙台、博多～佐賀、千葉～盛岡、羽田空港～浜松町
 ホテル代 二泊分
 ※料金明細は別紙添付

領収書等添付欄	<input type="checkbox"/> 別紙に添付
---------	--------------------------------

領収証

BC-00029685
発行日 2018/11/02

小林 正信 様

金額 **¥111,540.-**

上記金額を正に領収いたしました
 但し、公明党会派視察代として

名鉄観光サービス株式会社
 (本社所在地)
 名古屋市中村区名駅南三丁目14番19号
 (住友生命名古屋ビル8階)

領収者印: 責任者印のないもの及び訂正したものは無効です

現金
 小切手
 振込 111,540 円
 クレジット
 その他

印紙税申告納付につき名古屋市中村区税務署へ送付

責任者印	領収者印

BC-024122

政務活動費支払伝票

使途項目	調査研究費	支出日	11月14日
------	-------	-----	--------

支出証拠書類の額面金額	1,000	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	1,000	円
【支払概要】 会派視察資料代		

領収書等添付欄	<input type="checkbox"/> 別紙に添付
---------	--------------------------------

領 収 証

盛岡市議会議員 様
小林正信 No. _____

★ ¥1,000

内訳 現金 _____ 小切手 _____ 手形 _____ 消費税額等(%) _____	但 資料代として 2018年11月14日 上記正に領収いたしました 〒843-0022 佐賀県武雄市武雄町大字武雄7255 特定非営利活動法人 NPOスチューデントサポートフェイス
---	---

収入印紙

コクヨ ヲケ 98

視察等概要書

議員氏名 小林 正信

会派名	公明党
実施日	平成30年11月14日～11月16日
参加者	伊達康子 小原享子（北上市議） 池野直友 熊谷浩紀（北上市議） 小林正信
視察先および調査項目	佐賀県佐賀市…若者支援について 千葉県柏市…フレイル予防について 千葉県市川市…合葬式墓地について 千葉県千葉市…ユニバーサル就労・ひきこもり支援について
視察の概要および所感	<p>佐賀市ではNPO法人・スチューデント・サポート・フェイスを視察し、子ども・若者支援について伺った。県の子ども・若者総合相談事業の委託を受けており、アウトリーチ（訪問支援）を元にした取り組みは、支援を必要とする子どもや若者たちの家庭状況を把握し、より深い人間関係を築く上で重要であり、今後こうした伴走型の支援が不登校やひきこもりに陥った子ども・若者にとってますます必要になると感じた。</p> <p>柏市では虚弱状態、フレイルの予防に関して伺った。東大と連携してのフレイル予防は先進的であり、特に地域を主体にしたフレイル予防は今後ますます重要性が増すものと感じた。フレイル予防の取り組みを地域で推進する、フレイル・サポーターの育成も、地域のつながりを強め、仕事をリタイヤした男性を社会につなげる役割を果たしており、高齢化が進む現在、非常に示唆に富んだ内容だった。</p> <p>市川市の合葬式墓地は、孤独死が問題となっている昨今、自分の死後のお墓に関する不安や、お墓の後継者がいない市民に対するニーズに対応しており、参考になる事業だった。</p> <p>千葉市では、NPO法人・ユニバーサル就労ネットワークちばを訪問し、障害の有無に関らず、働きづらさを抱える全ての人を支援する「ユニバーサル就労」の理念、また取り組みについて伺った。</p>
【添付資料】	

公明党会派行政視察行程表

盛岡駅発着

【11月14日(水)】

盛岡	駅 (7:36)	——	はやぶさ6号	——	(8:15)	仙台	駅
仙台	駅 (8:46)	——	仙台空港アクセス線・仙台空港行	——	(9:10)	仙台	空港
仙台	空港 (10:00)	——	全日本空輸3110便 (IBEX便)	——	(12:15)	福岡	空港
《屋食：機内または特急車内で各自》							
福岡	空港 (12:51)	——	市地下鉄空港線・姪浜行	——	(12:56)	博多	駅
博多	駅 (13:31)	——	特急みどり13号	——	(14:15)	佐賀	駅
佐賀	駅 (14:15)	——	タクシー1.1km	——	(14:25)	視察	先

NPOステューデント・サポート・フェイス 様視察(14:30~16:30) ○若者支援の取り組みについて
 〒840-0826 佐賀県佐賀市白山2丁目2-7 (視察は佐賀市事務所対応) TEL:0954-22-3423

視察	先 (17:00)	——	タクシー1.1km	——	(17:10)	佐賀	駅
佐賀	駅 (17:37)	——	特急かもめ30号	——	(18:14)	博多	駅
博多	駅 (18:20)	——	市地下鉄空港線・福岡空港行	——	(18:25)	福岡	空港
福岡	空港 (19:00)	——	日本航空328便	——	(20:35)	羽田	空港
羽田	空港第1ビル (21:08)	——	東京モノレール区間快速・浜松町行	——	(21:27)	浜松町	駅
浜松町	駅 (21:34)	——	JR山手線内回り・東京上野方面	——	(21:36)	新橋	駅

《宿泊》ホテルユニゾン新橋 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目5-2

【11月15日(木)】

ホテル	新橋 (8:40)	——	徒歩5分	——	(8:45)	新橋	駅
新橋	駅 (8:51)	——	JR山手線内回り・東京上野方面	——	(9:06)	日暮里	駅
日暮里	駅 (9:10)	——	JR常磐線快速・成田行	——	(9:35)	柏	駅
柏	駅 (9:40)	——	議会公用車	——	(9:50)	柏市役所	

柏市 様視察(10:00~12:00) ○フレイル予防について *柏駅東口側みどりの窓口前で待ち合わせ
 〒277-0005 千葉県柏市柏5丁目10番1号(本庁舎6階) TEL:04-7167-1451

柏市役所	(12:00)	——	議会公用車	——	(12:10)	柏	駅
《屋食：柏駅周辺で各自》							
柏	駅 (13:02)	——	JR常磐線各停・向ヶ丘遊園行	——	(13:10)	新松戸	駅
新松戸	駅 (13:12)	——	JR武蔵野線・南船橋行	——	(13:27)	西船橋	駅
西船橋	駅 (13:33)	——	JR中央・総武線・三鷹行	——	(13:37)	本八幡	駅
本八幡	駅 (13:37)	——	タクシー1.5km	——	(13:47)	市川市役所	仮本庁舎

市川市 様視察(14:00~16:00) ○合葬式墓地について *庁舎建設に伴い仮本庁舎で対応
 〒272-0023 千葉県市川市南八幡2-20-2 (仮本庁舎5階) TEL:047-712-8673

市川市役所	仮本庁舎 (16:30)	——	タクシー1.5km	——	(16:40)	本八幡	駅
本八幡	駅 (17:09)	——	JR中央・総武線・千葉行	——	(17:40)	千葉	駅

《宿泊》ホテルサンルート千葉 〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉1丁目4-1 (千葉駅直結)

【11月16日(金)】

ホテル	視察先 (9:45)	——	タクシー1.6km	——	(9:55)	視察	先
-----	--------------	----	-----------	----	----------	----	---

ユニバーサル就労ネットワークちば 様視察(10:00~12:00) ○ユニバーサル就労や若者支援の取り組みについて
 〒260-0013 千葉市中央区中央3-9-9 エレル千葉中央ビル2階 (2階会議室で対応) TEL:043-306-2564

視察	先 (12:00)	——	タクシー1.6km	——	(12:10)	千葉	駅
《屋食：千葉駅周辺で各自》							
千葉	駅 (13:24)	——	JR総武線快速・逗子行	——	(14:04)	東京	駅
東京	駅 (14:20)	——	はやぶさ25号	——	(16:33)	盛岡	駅

政務活動費支出簿

使途項目	研修費
------	-----


支出年月日	支出金額	摘要	備考
H30. 7. 20	5,000 円	市政調査会拠出金	
H31. 1. 16	9,000 円	市政調査会拠出金	
H31. 1. 16	29,480 円	市政調査会臨時研修会旅費	
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
合計	43,480 円		

政務活動費支払伝票

使途項目	研修費	支出日	7月20日
------	-----	-----	-------

支出証拠書類の額面金額	5000	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	5000	円
【支払概要】 市政調査会拠出金		

領収書等添付欄	<input type="checkbox"/> 別紙に添付
---------	--------------------------------


<table border="1"><tr><td>領 収 書</td></tr></table>	領 収 書
領 収 書	
小林 正 信 様	
一金 5,000円 也	
平成30年度市政調査会拠出金として、上記のとおり受領しました。	
平成30年7月20日	
盛岡市市政調査会 会長 菊 田	
	

政務活動費支払伝票

使途項目	研修費	支出日	1月16日
------	-----	-----	-------

支出証拠書類の額面金額	9000	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	9000	円
【支払概要】 市政調査会拠出金		

領収書等添付欄 <input type="checkbox"/> 別紙に添付
--

<p>領 収 書</p> <p>小林正信様</p> <p>一金 9,000円 也</p> <p>平成30年度市政調査会拠出金として、上記のとおり受領しました。</p> <p>平成31年1月16日</p> <p>盛岡市市政調査会 会長 菊田 隆</p> 

政務活動費支払伝票

使途項目	研修費	支出日	1月16日
------	-----	-----	-------

支出証拠書類の額面金額	29480	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	29480	円

【支払概要】 市政調査会臨時研修会
 交通費 盛岡⇄東京都文京区

領収書等添付欄

領収証

BC-00030135
発行日: 2019/01/16

小林 正信 様

金額 **¥29,480**

現金
 小切手
 振込 29,480 円
 クレジット
 その他

上記金額を正に領収いたしました。
 但し、市政調査会臨時研修会 旅費

名鉄観光サービス株式会社
 (本社所在地)
 名古屋市中区名駅南三丁目14番19号
 (住友生命名古屋ビル4階)

領収者印 責任者印のないもの及び訂正したものは無効です

責任者印	領収者印
------	------

BC-024562

政務活動費支出簿

使途項目	広報費
------	-----

支出年月日	支出金額	摘要	備考
H30. 7. 12	30,000 円	広報No. 9作成委託費	
H30. 7. 12	69,120 円	広報No. 9印刷経費	
H30. 10. 20	30,000 円	広報No. 10作成委託費	
H30. 10. 22	74,520 円	広報No. 10印刷経費	
H31. 2. 19	30,000 円	広報No. 11作成委託費	
H31. 3. 1	68,040 円	広報No. 11印刷経費	
H31. 3. 1	18,954 円	広報No. 11ポストイング経費	
H31. 3. 28	100,656 円	広報No. 12印刷経費	
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
	円		
合計	421,290 円		

政務活動費支払伝票

使途項目	広報費	支出日	7月12日
支出証拠書類の額面金額		30,000	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)			
政務活動費支出金額		30,000	円
【支払概要】 広報作成委託費			
領収書等添付欄			

別紙に添付

領 収 証

西田 伸 彦 様

中村 隆 彦 様 630年 7月12日

★ ¥ 40,000

但 中村 隆彦 様 宛 通信 No.9 企画制作代金
上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等(%)

N・T・P 創造開発研究所

〒020-0121 盛岡市月が丘1-24-17
Tel & Fax 019-647-1292




中村 隆彦

政務活動費支払伝票

使途項目	広報費	支出日	7月12日
------	-----	-----	-------

支出証拠書類の額面金額	69,120	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	69,120	円
【支払概要】 広報印刷経費 ※A4サイズ8ページ立て、1000部		

領収書等添付欄

領 収 証		No. 004762
		平成30年7月12日
公明党 小林正信 殿		
領収金額	¥ 69,120	
但 通信 NO.9 印刷代として		
上記金額正に領収致しました。		
入金内訳	現金	✓
	小切手	
	約束手形	
	振込	
	その他	
受領印		
		
〒020-0827 岩手県盛岡		
小松総合印刷株式会社 電話 (019) 624-1374 FAX		



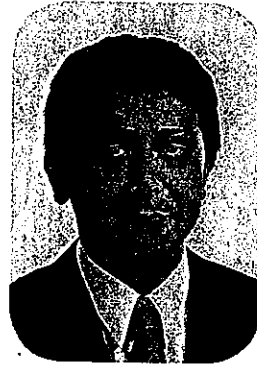
Eメール: kbycsonotoki@yahoo.co.jp

小林まさのぶ通信

発行:小林まさのぶ / 〒020-0041盛岡市境田町10-86 ロイヤルストーク B102号 携帯電話:090-6450-7618 Fax:019-618-3181

あいさつ 盛岡市議会議員 小林まさのぶ

東日本大震災被災地を視察



市民の皆様には、市政、また私の議員活動に対しまして、日頃より貴重なご意見やご要望を頂き、誠にありがとうございます。

去る5月22日・23日に向け、岩手県沿岸被災地の会派視察に行つて参りました。1日目は宮古市に向かい、市役所において市職員から復興状況を伺いました。宮古市の今後の展望として、宮古―室蘭間のフェリーの就航、ラグビーワールドカップの釜石開催による首都圏からの観光客の増加に期待したいとの事でした。その後、完成したフェリーター

ミナルに移動し、現地を視察。県職員から航路の概要、大型クルーズ船の誘致、施設整備の状況などの説明を受けました。

続いて大槌町役場に移動し、町長

から震災復興についての説明を受けました。

釜石で行われるラグビーワールドカップについては、実行委員会からの連絡が少なく、会場においても地元の人材などを使った屋台なども設置できないとの事で、町長としては被災地支援の観点が薄いと感じている様子でした。大規模なイベントを誘致することも大事ではありますが、そ

れが本当に地域の復興につながっていくのか、検証することも必要であると感じました。

翌日の午前中は、釜石市役所に赴き、市長から復興状況の説明を受けました。その後、懇談となり、釜石の物産をいかにアピールするかなど具体的な支援について有意義な話し合いを持つことができました。また市長からはラグビーワールドカップ開催についてのアピールがあり、今後の諸



宮古港フェリーターミナル

この広報誌は、政務活動費で作成しています。市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

携帯電話:090-6450-7618 Fax:019-618-3181 <小林まさのぶ>



工事中のラグビーワールドカップ会場<大槌町>

課題について同じく開催地となっている東京都などからもアドバイスを受けた旨の意見もありました。

午後は大船渡市役所に移動し、担当課長より応援・派遣職員受け入れの現状と課題について、海外と被災地との交流について説明がありました。

その後、大船渡魚市場に移動し、魚市場の専務よりパネルを使った大船渡の被災状況の説明、魚市場の最新の管理システム等についての説明を受けました。今回の一連の視察により、被災地の復興の進捗状況と、現在の課題を確認することが

できたと感じております。震災より7年が過ぎました。社会全体として、徐々に当時の記憶や、被災地が忘れ去られていく、いわゆる「震災の風化」が危惧されております。盛岡市が今後、震災の風化防止、被災地に対する支援に、岩手の県都としてリーダーシップを發揮していただけるよう、私も市議会議員として取り組みを進めて参りたいと決意しております。今後とも市民の皆様におかれましては、ご指導、ご鞭撻の程、宜しく
お願い申し上げます。



昨年同様、私が所属する議会広報委員会において、柏市、ふじみ野市へ行政視察に行つて参りました。本年5月1日発行号より、委員会における協議・意見を反映させ、盛岡らしいデザイン、内容の議会広報へとリニューアル致しました。市民の皆様におかれましても、紙面に対する

ご意見、ご要望を頂きます様、宜しく
お願い申し上げます。

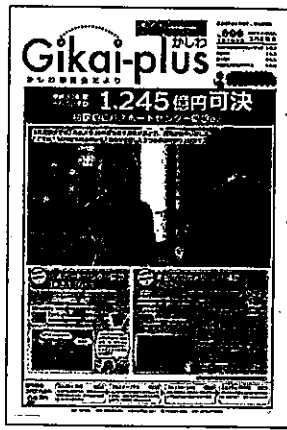
【柏市】議会広報について

柏市の議会広報は、印刷業者に委託を行い、リニューアル後の紙面は見やすく、センスに溢れるものとなっております。しかしながら、どこかインパクトが薄れた部分もあるように感じました。デザイン性や、見やすいレイアウトを迫及しすぎるという点も少し悪しがあると感じました。また、一般質問の掲載行数が各会派に会派の人数で振り分けられるという掲載方法は、少し公平性に欠ける気が致しました。しかしながら、章の中で解説が必要な語句を

ピックアップして
欄外に掲載する手
法等、紙面を効率
よく使っている点
には感心しまし
た。また、議案の
議決結果も賛否が
分かれたものだけ
掲載されており、

リニューアル市議会だより

省スペースの効果があることから、盛岡市でも導入してはどうかと思いましたが。ツイッターを活用しているとのことでしたが、凡そ42万の人口に対してフォロワー395人は少ないと感じました。



以前の柏市議会報→改訂されたもの

【ふじみ野市】議会広報について

ふじみ野市は柏市と対照的で、題字は市内の中学生によるものです。表紙はカラーではなく、市内で働く方の写真が大きく掲載されており、表紙のセンスの良さだけで見ると、柏市が優れていると感じますが、人間味溢れる紙面、市民に愛される

紙面という点では、ふじみ市が優れていると感じました。また、議員がデザイン等も行っており、その編集技術は当然印刷業者には劣ると思いますが、委員の広報に対する情熱が感じられる紙面となっております。ただ、議会広報に力を入れる余り、議員の負担が大きいように感じました。広報委員（議員）がやるべき仕事、市の職員に任せても良い仕事の割り振りが必要であると感じました。

また、紙面に市民を多く登場させることで、市民に議会への関心を持つてもらうきっかけになっていると伺いました。盛岡市においても、毎回ではないにせよ、そうした企画が年に1回程度はあっても良いのではないかと感じました。市民へのインタビューを続ける事で、少しずつではありますがありますが、議会と市民をつなげる効果があるのではないかと思います。また、掲載される一般質問の原稿と写真は、質問した議員本人が担当しており、それに関して特に不満は出ていないとの事で、そういうシステムも必要であると感心致しました。

小林
まさのぶレポート
若者の就業
支援について

盛岡市議会議員となつて三年目となりました。今後も盛岡市において、若者が希望を持ち、安心して生活できる環境づくりを推進して参りたいと思っております。

盛岡市は、平成27年3月に「盛岡市子ども・若者育成支援計画」を策定しました。この計画は、2010年4月に施行された国の「子ども・若者育成支援推進法」、および「子ども・若者ビジョン」を受けたもので、教育、福祉、保健、医療、更生保護、雇用などの各分野が、互いに連携・協力して包括的な支援ができるよう策定されたものです。子どもや若者一人一人に寄り添い、全ての子ども・若者が健やかに育ち、自立

して活躍できるまち、もりおか」を目指す内容であると思えます。

若者に対しては、何よりもまず働く場があること、そして、そこに就業するまで、或いは就業した後のサポートが大切だと思っています。また、若者の就労に関する新たな施策を考えることも重要ですが、同時に現在行われているサービスを周知し、それを若者に十分に利用してもらう事も大切だと考えます。その意味で今回は、あらためて、県や盛岡市が事業を委託している「ジョブカフェいわて」と「盛岡若者サポートステーション」の二つの施設を紹介したいと思います。

ジョブカフェいわて

県が設置する、就職・仕事のサポート施設です。キャリアアカウンタールーによる就職相談や履歴書、職務経歴書などの応募書類のチェックサポート、さらには面接練習（模擬面接練習、面接マナーの確認）、適性診断なども行うことが出来ます。ま

た、来館できない方向けに、メールにて相談書類のチェックを行う事もできます。面接練習を希望する場合は、事前に電話で予約いただくとスムーズに行うことが出来ます。

（電話 019-621-1171）

就職活動セミナーとして就職活動パワーアップ講座「自分の強みを発見！」「伝わる書類を作成！」「面接で自分をアピール！」を開催しています。また、館内サービスとして、県内企業の会社案内、ガイドブック、就職活動に役立つ書籍・書類作成やインターネットでの情報収集に使えるパソコンを10台完備、書類作成のフリースペースを設置しております、いつでも利用できるようになっていきます。また、求人情報の検索・閲覧および職業紹介は、同ビル2階のハローワークでおこなっています。

もりおか若者サポートステーション

現在、内閣府の試算では、全国でひきこもりの若者が90万人以上いる

と推計されております。盛岡市の全世帯133、084世帯に換算すると、466世帯にひきこもりが存在すると推計されます。また内閣府によると準ひきこもりと呼ばれるかたは1・19%の割合で存在するとされており、これらをあわせると2000名を超えると推計されます。この数値は無視できない大きなものであり、ひきこもりの対策、施策は、すべての若者の就業、自立支援に関して多くの示唆、ヒントを得られるのではないかと思っております。ここでは、盛岡市が事業を委託している、盛岡若者サポートステーションを紹介致します。この施設は、自立と就業に悩む若者の支援を行っております。

もりおか若者キャリアサポート事業

就職や進学、進路選択、自立、社会参加に悩みや不安を抱えるすべての若者の支援を幅広く行います。若者のキャリア（はたらく）と「活きる」と「参加する」を応援する

事業です。

電話 019-601-4561

メール mail@my-pott.jp

もりおか若者サポートステーション事業

自立に困難を抱えるニートやひきこもりの若者、とくに長期間に渡って仕事についていない就職に關した様々な悩みを抱える若者たちの就業支援を行っています。就職に向けた様々なプログラムやセミナー、適職診断などを行っています。専門の支援員が相談に応じます。

電話 019-625-8460

メール mail@morisapo.jp

ひきこもりの方やそのご家族へ総合的なひきこもり支援

ひきこもりの方やそのご家族を対象に、家庭訪問、居場所活動、学習支援活動、本人・家族相談、ひきこもり家族相談会、ひきこもり支援者セミナーなど総合的なひきこもり支援も行っています。ご家庭にひきこ

もりの方がいらつしやるご家族の方、ひきこもりから脱したいと考えていらつしやるご本人の方、その他ひきこもりに関わった支援を行っている支援者の方も相談することが出来ます。

電話 019-613-3457

メール mail@yukiwari.jp

若者が夢や希望を持って働ける街づくりのためには、若者の就業支援と同時に、若者の起業支援の充実も重要だと感じております。現在、県や市では中小企業への貸付、資金繰りの制度はありますが、若者の起業に特化した資金の貸し付けや、税制における優遇など、具体的な支援の施策も充実させていくべきと考えます。そのことによつて、若者や若い夫婦の移住が促進され、将来的に盛岡市の人口、税収の増加に繋がっていくと考えます。今後も、多角的な視点から、若い世代に魅力を感じてもらえる街づくりのため、取り組みを進めて参りたいと決意しております。

2018年3月定例会一般質問

〈要旨抜粋〉 質疑内容 太字は質問／細字は答弁

■若者の支援について

近年、雇用構造の変化や、様々なつながりの希薄化により、若い世代を取り巻く環境は厳しいものとなってきました。皆様から様々な相談を頂く中で、若者が経済的困窮、孤健康問題、社会からの孤立など、複合的な問題を抱える場合、一つの問題がクリアできても、別の問題がネックとなって、その方が抱える課題が前に進まないという事を実感しております。盛岡市では、一つの窓口で受けた相談が他の分野にかかわるものである場合には、それぞれの相談支援機関に迅速につなげ、適切な支援やサービスを受けられる仕組みづくりを進めております。この事業の現在の進捗状況と課題について、お聞かせ下さい。

事業の中核となる会議の中で、支援を必要とする方に対し、相談支援

員や地域福祉コーディネーターが、チームとして支援できる仕組みづくりを検討しており、事例を積み重ねる中で、具体化に向けて取り組むこととしている。また、複合的な問題を抱える世帯に対し、高齢、障がい、生活困窮など、専門的な支援機関のかかわり方を調整する組織のあり方が課題と認識している。

各支援団体においてその難しさが指摘されておりますが、本当に困っている支援が必要な方と、いかにして繋がるか点であると思います。現在、支援が必要と思われる若者を、支援につなげる取り組みとして、行っている事があればお知らせ下さい。

若者に限らず、地域に支援が必要の方がいるとの情報が寄せられた場合には、市社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターが、必要な支援機関につないでいる。

複合的な問題を抱えた相談者の対

応については、受けた相談を共有し、つなげる機能、また一次的な受け皿としてのワンストップの相談窓口が必要であると考えます。県では現在、盛岡市内2箇所子ども・若者総合相談センターとして、子ども・若者が様々な悩みを相談できる窓口を設置しております。盛岡市においても、こうした県の窓口や、岩手県で設置している子ども・若者自立支援ネットワーク会議との連携を行ってきたと思いますが、これまでの連携の状況についてお聞かせ下さい。

子ども・若者総合相談センターについては、子ども会育成会連絡協議会など、子供、若者の支援者が集まる会議や市のホームページなどを通じて、活用されるよう周知を行っている。岩手県子ども・若者自立支援ネットワーク会議については、同会議が主催する研修会に職員を派遣し、職員の資質向上に努めており、将来的には市町村を含めた支援ネットワークを構築する予定であり、県を初め関係機関、団体等と積極的な連携を図りながら、子供、若者が抱える悩

み等に対し、年齢階層で途切れることのない継続的な支援を行っていく。

相談者の問題解決がスムーズに行われ、児童から青年までの切れ目のない支援も強化される効果が期待されることから、子ども・若者総合相談センターを盛岡市においても設置できればと考えますが、いかがでしょうか。

岩手県子ども・若者ネットワーク会議において、今後、市町村に求められる役割や機能が示されるものと伺っており、その内容を踏まえて設置に向けた検討を進めてまいりたい。

盛岡市においても、子ども青少年課、少年センターなどで、子ども・若者に関する相談事業を行っておりますが、29年度の相談実績が昨年12月末で9回と、目標と大きく離れている状況と伺いました。この要因として、人員の不足が挙げられると考えますが、増員の予定はありますでしょうか。また、メールでの相談受付も行っていると伺いましたが、その実績をお知らせ下さい。

平成30年度には、子ども未来部に

において、子供や保護者に寄り添って継続的な相談・支援を行う「子ども家庭総合支援センター」を設置し、専門的知識を有する職員2名の増員を図り、相談体制を強化することとしている。メールでの相談実績については、21年度から導入しており、これまで32件の実績となっている。

国においては、いじめ、若者の自殺対策にSNSを活用した相談機関の確保、相談ノウハウの確立や相談員の育成を検討していると伺っており、LINEやツイッターなど、SNSを利用した相談受付も考えられますが、ご所見をお伺い致します。

ラインやツイッターによる相談は、本人確認や即時的な対応に課題もあり、導入には慎重な判断が求められるが、時間や場所を選ばず、気軽に相談ができ、悩みを持つ子供、若者が早期に相談機関につながるというメリットが期待でき、他都市の事例なども参考にしながら研究してまいりたい。

アウトリーチ（訪問活動）による支援（に取り組みNPO法人でお話を

伺った際、アウトリーチ人材の不足について要望を頂きました。今後の盛岡市におけるアウトリーチ支援の強化について、ご所見をお伺いします。

アウトリーチ支援については、社会福祉協議会等により開催されている「もりおかコミュニティソーシャルワーク懇話会」において、「ひきこもりに基づく複合的問題」をテーマとして取り上げ、相談支援関係者や関心がある市民にも参加いただきたいながら、課題やニーズについて情報交換を行っている。

今後のアウトリーチ支援については、ひきこもりの背景には複数の要因があること、また家族や周囲に対する支援も必要なことから、多機関の協働による包括的支援体制構築モデル事業の中で、継続して取り組んでまいりたい。

近年、80-50問題、また70-40問題という言葉をよく耳にします。これは、80代、もしくは70代の親と、50代、もしくは40代の子の世帯で困窮、孤立し、深刻な状況に陥ってしまう可能性があるという問題であり

ます。盛岡市においても、高齢化するひきこもりの実態や規模を把握し、それをもとに今後の対策を考えたいかねばならないと考えます。アンケートなどによるひきこもり調査の必要性について、ご所見をお伺いします。

実態を把握する上で調査は大変有効なものであり、30年度に岩手県がひきこもりの実態調査を行うと伺っている中で、その調査結果を踏まえ、必要とされる支援について検討してまいりたい。

盛岡市において、ひきこもり支援のモデル的な地区を作り、その中で地域との協働による取り組みを行う事も考えられますが、いかがでしょうか。また今後、盛岡市においてもひきこもりに関する相談先や、情報を集約する部署が必要と考えますが、いかがでしょうか。

30年度は多機関の協働による包括的支援体制構築モデル事業において、ひきこもりをテーマの一つに取り上げることとしており、他市町の事例も参考にしながら取り組みにつ

いて検討してまいりたい。

また、ひきこもりは複合的な問題を抱えるケースが多いことから、多機関の連携による包括的な支援が効果的と考えており、この事業の委託先である盛岡市社会福祉協議会と連携して取り組んでいる。市においては、保健福祉部地域福祉課を集約する部署として位置づけている。

孤立する若年困窮者やひきこもりの支援には、周囲からの励ましなどによって、最終的に自分の中から自立する力を引き出す事、いわゆるエンパワメントが重要であると考えます。盛岡市においても様々な団体がボランティア活動や地域内の様々な活動、中間的就労を通して、ひきこもりの当事者や生活困窮者が社会性や自尊心を取り戻す取り組みを行っていると思いますが、市内の現状と、今後の中間的就労の必要性について、ご所見をお聞かせ下さい。

当市では現在、社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターや盛岡市くらしの相談支援室の相談支援員、NPO法人等の職員などにより、当事

者や家族に寄り添いながら、相談、居場所、就労など、段階を踏んだ支援につながる取り組みが行われている。

今後の中間的就労の必要性については、ひきこもりの方にとっては、社会とのつながりが重要と認識しており、他都市の事例や障がい者就労支援などの既存の仕組みを参考に研究してまいりたい。

■移住・定住施策について

盛岡市においては、29年度の補正予算、30年度の当初予算で移住・定住の事業を立ち上げ、都内で行われる移住・定住のイベントに積極的に参加するなど、U・Jターンの具体的な取り組みを進めている所であります。そこで、雇用の整備等はもちろんのこと、それ以外にも若者や移住者が盛岡に魅力を感じる取り組みが必要になると考えます。その上で、移住者への新たな仕事の提供と、働き方改革の意義も込めて、テレワーク拠点（※テレワークを支援する拠点）の設置を考えても良いのではないかと思います。ご所見を

お伺いします。

※テレワーク就業場所に縛られることなく、通信回線等を確保できれば、パソコンなどで自宅などでも就業することができ、新しい働き方。こうした働き方を取り入れる企業も増えている。

テレワーク拠点の設置について、本市には、首都圏等のIT系企業やデジタルコンテンツ系企業が進出してきているほか、市内のコワーキングスペース（様々な人が集まり、仕事や、ノウハウやアイデアを共有し、協働する場所のこと）やシェアオフィスなどにおいては、通信回線等が整備された事業スペースの開設も進んでいる。

また、市産業支援センターでは、入居者に高速通信回線やワイファイ接続環境を提供し、経営相談も行っているほか、コワーキングスペースにおいては、場所を共有しながら個人が事業主体として働きつつ、利用者同士がアイデアや情報交換すること、ネットワーク形成につながる取り組みをしており、今後もその拠点を有した施設として活用を進めてまいりたい。

観光客が多く訪れる既存の施設等に、盛岡への移住に関する相談拠点を設置し、U・Jターン希望者への対応を行う事も考えられますが、いかがでしょうか。また、移住希望者への住居の情報提供のために民間の業者との連携や、場合によっては空き家を活用した施策も必要と思いますが、今後そうした予定は考えておられますでしょうか。

市では移住・定住の相談窓口やお試し居住などに供するためのゲストハウス型交流拠点の整備を検討しており、平成30年度においては整備に向けた事前調査を行うとともに、移住・定住コーディネーターとして地域おこし協力隊を新たに採用する予定としている。あわせて、相談体制の充実を図るため、お盆や年末年始など若い世代が盛岡に戻る時期において、市内において相談会を開催することや、既存施設を活用した窓口設置についても同時に検討を進めている。

このことから、相談の対応として当面は地域おこし協力隊を活用し、首都圏等で行われる移住・定住フェ

アなどに出向くなど、相談受け付けの機会を積極的にふやしてまいりたい。移住希望者への住居の情報提供について、平成29年度に国土交通省において実施している全国の空き家情報提供を行っている。空き家が検索できる、全国版空き家・空き地バンクに参加しており、バンクの運営を行う民間事業者と連携しながら、全国の移住希望者への空き家の情報提供を行っている。

空き家活用のための施策については、転入者が空き家を活用する場合は、リフォーム費用補助について、平成29年6月より社会実験として取り組んでおり、今後もこの事業を継続してまいりたい。

2017年度の若年者雇用動向調査によると、県内に本社がある企業を1社も知らないという高校生や学生が37%にもものぼるとの結果が公表されました。そこで、今や若者にとって無くてはならないツールであるスマホを利用しSNS、スマホアプリを活用した若者の就職応援、地元定着の取り組みを行っていくべきではないかと考えますが、ご所見を

お伺いします。

若い世代のほぼ全員がスマートフォンを所有し、SNSなどによりさまざまな情報を収集していることから、市としてもSNSなどによる情報提供は効果的であると考えている。

現在、地元企業で働く若者の姿やインタビューなどを、平成28年度に立ち上げたウェブサイト「GOMORIOKA.COM」において紹介し、情報発信している。

平成30年度には、高校生に地元で働く喜びや魅力を伝えるために、(仮称)高校生就職応援マガジンを新たに制作し、市公式ツイッター等のSNSも活用しながら情報発信していく予定としているほか、地元企業の現地見学会など、仕事の現場を直接見てもらう取り組みも継続実施し、若者の地元就職、定着を応援してまいりたい。

SNSやアプリによる、更なる盛岡市の魅力発信強化を行って頂きたいと思えます。例えば、専用のアプリや、SNSを通じて盛岡における「インスタ映え」するスポットを発

信する、また様々なイベント会場において、撮影用のブースを設けるなど、スマホやネットを活用したシティ・プロモーションも今後、重要になってくると考えますが、ご所見をお伺いします。

一般的に若い世代は、スマートフォンを利用した情報収集の頻度が高いと言われておりますが、その一方で、SNS上における「盛岡」に関する情報は、他の東北県庁所在地と比べ少なく、若い世代における「盛岡」の認知度や関心度は低い現状にあるものと認識している。

また、多様な情報が錯綜し、行政が発信する情報が必ずしも選ばれない状況において、「盛岡」に関する情報をふやすためには、個人が自発的に情報を発信することがその後情報の拡散も含め、有用な視点の一つであると考えている。

特に若い世代の自発的な情報発信を喚起するためには、写真映えする、いわゆるインスタ映えするスポットの提供などの機会を設けることも有効な手段であると考えてい

る。これらのことを踏まえ、今後においても時勢に応じた情報発信の手法を模索し続けながら、効果的な情報発信に努めてまいりたい。

■奨学金返済制度について

最後に若者の移住・定住の観点から、奨学金返還支援制度についてお伺いします。以前の私の質問に対して、現在盛岡市では、食と農、ものづくりという形で雇用の創出に力を入れており、その部分と絡めた戦略的な人材確保という観点で、さらに詰めていきたいとの答弁を頂きました。盛岡市においても現在は保育士への奨学金返還支援を行っておりますが、今後、盛岡市が必要とする人材に絞った奨学金返還支援制度があれば、盛岡市にU・Jターンを考えている若者にとっての一つのきっかけ、後押しになる部分もあると考えますが、いかがでしょうか。導入についてのご所見をお伺いします。

県が平成29年度に募集を開始したいわて産業人材奨学金返還支援事業

には、58人の応募があったと伺っており、返還支援制度への関心もあり、U・Jターンの契機づくりに一定の効果があるのではないかと考えている。

本市においては、29年度に保育士の確保対策として奨学金返還支援制度を創設し29年度は101人に補助金を交付予定となっている。園関係者や制度を利用した方の協力をいただきながら、その効果を把握してまいりたい。

今後は、効果の把握とともに他都市の状況もあわせて確認しながら、市が必要とする人材に絞った奨学金返還支援制度の導入を行うべきかどうかについて、さらに研究検討してまいりたい。

小林まさのぶプロフィール

昭和52年10月31日

盛岡市、中屋敷町生まれ。

私立岩手高校卒。

創価大学文学部人文学科卒。

民間企業勤務を経て、平成18年から

実家の看板会社(小林看板)を継ぐ。

盛岡市議会広報委員会委員。

盛岡市教育福祉常任委員会委員。

政務活動費支払伝票

使途項目	広報費	支出日	10月20日
------	-----	-----	--------

支出証拠書類の額面金額	30,000	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	30,000	円
【支払概要】 広報作成委託費		

領収書等添付欄

領 収 証

岩田市議会議員

小林正信様

平成30年10月20日

★ 30,000

但 小林正信の通信 No.10 企画制作料
上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等(%)

N・T・P創造開発研究所

〒020-0121 盛岡市月が丘1-24-17

Tel&Fax 019-647-1244




中村 達 夫

政務活動費支払伝票

使途項目	広報費	支出日	10月22日
------	-----	-----	--------

支出証拠書類の額面金額	74,520	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	74,520	円
【支払概要】 広報印刷経費 ※A4サイズ10ページ立て、1000部		

領収書等添付欄

領 収 証		No. 004895										
		平成30年10月22日										
公明党 小林正信 殿												
領収金額	¥ 74,520											
但通信NO.10印刷代として 上記金額正に領収致しました。												
入金内訳	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>現金</td><td style="text-align: center;">✓</td></tr> <tr><td>小切手</td><td></td></tr> <tr><td>約束手形</td><td></td></tr> <tr><td>振込</td><td></td></tr> <tr><td>その他</td><td></td></tr> </table>	現金	✓	小切手		約束手形		振込		その他		受領印 
現金	✓											
小切手												
約束手形												
振込												
その他												
〒020-0827 岩手県盛岡市 小松総合印刷												
電話 (019) 624-1374 FAX												



小林まさのぶ通信

Eメール: kbycsonotoki@yahoo.co.jp

発行:小林まさのぶ / 〒020-0041盛岡市境田町10-86 ロイヤルストーク B102号 携帯電話:090-6450-7618 Fax:019-618-3181

あいさつ 盛岡市議会議員 小林まさのぶ

災害続く日本列島。万全の備えを！



市民の皆様におかれましては、市政、また私の議員活動に対し、日頃より貴重なご意見、ご要望を頂き、心より感謝申し上げます。

さて、何よりもまず、6月の大阪北部の地震、その後続いた台風21号による暴風雨、中国・四国地方を襲った西日本豪雨、そして北海道で発生した最大震度7の大きな地震により、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。先日、有志による募金活動にも参加させて頂きました。被災地の皆様が一

一刻も早く安心を取り戻し、力強く復興の歩みを進められる事を願うばかりです。

今般、盛岡市に対する一般質問でもふれさせて頂きましたが、夏の猛烈な暑さも含め、今年の日本を襲ったような異常気象や大規模な災害は、世界各地においても頻発しております。こうした異常気象は、地球の温暖化が原因とも言われております。気象庁はこのまま温暖化が進んだ場合、今世紀末

の全国の平均気温は20世紀末より4.5度上昇し、1日に200mm以上の豪雨も2倍以上に増えると予測しており、気象災害のさらなる激甚化が懸念されております。

盛岡市は、「みんなが支える子ども・子育て応援プロジェクト」など3つのプロジェクトを立ち上げ、重

点政策として参りましたが、近年の異常気象、地震の頻発を考えた時、これからは防災・減災についても施策の大きな柱のひとつとして取り組みを進めていかなければならないと感じております。盛岡市より各家庭に防災マップの配布もあつたかと思いますが、これよりは、まず第一に市民の皆様への安心・安全を守る施策の充実が図られるよう、私も議会活動を通し取り組みを進めて参る決意です。

皆様におかれましては、市政に對しましてご意見、ご要望をお寄せ頂ければ幸いです。また今後とも、ご指導、ご鞭撻を給りますよう、お願いを申し上げます。

小林まさのぶプロフィール

昭和52年10月31日
盛岡市、中屋敷町生まれ。
私立岩手高校卒。
創価大学文学部人文学科卒。
民間企業勤務を経て、平成18年から
実家の看板会社(小林看板)を継ぐ。
平成27年盛岡市議会議員初当選。
盛岡市議会広報委員会委員。
盛岡市教育福祉常任委員会委員。

この広報誌は、政務活動費で作成しています。市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

携帯電話:090-6450-7618 Fax:019-618-3181 <小林まさのぶ>

研修・視察レポート

1 遠野市

山里ネットのグリーン・ツーリズムに学ぶ

8月9日、会派の夏期研修として、遠野市の認定NPO法人遠野山・里・暮らしのネットワーク（以下、遠野山里ネット）の菊池代表のお話を伺って参りました。

遠野山里ネットは、遠野市を活動の拠点として、「資源を生かした都市住民との交流の深化と移住の促進」「伝統文化・芸能・技術・技芸の伝承と進化と応用」「里地・里山における循環的な生活スタイルの再興と実践」を柱とした具体的な事業を行うことにより、社会全体の利益の増進に寄与することを目的として設立されました。

遠野市は、柳田國男の「遠野物語」の舞台として、また河童の里として、全国的に有名な観光地ですが、高齢化率36・7%（H27・11月

現在）と、他の地方の市町村同様、

過疎化、少子化、高齢化の流れには逆らえない状況にあります。こうした状況の下で、遠野山里ネットは、

グリーン・ツーリズムによる地域の活性化を目的に、平成15年より活動

を行っております。グリーン・ツーリズムとは、都会の人々が農山漁村

等に訪れ、地域の人々と交流しながら、余暇をゆつくりと楽しむ新しい

旅のスタイルを指します。遠野山里ネットは、〈交流と共感と協働〉に

基づき、自発的に生まれた多様な遠野のグリーン・ツーリズムのグルー

プを、それぞれがさらに発展していくよう支援するとともに、1つのグ

ループだけではなしえなかつた取り組みを実現しようと活動しています。

都市と農村を結び付け、マッチン

グする事で、遠野市への移住・定住までを視野に入れた具体的な活動は、盛岡市にとっても大変参考になり、取り入れていきたい活動、事業であると感じました。具体的な取り組みとして挙げられるのは、①インターネットを活かしたツーリズム、②アート（芸術）及びライフ（実際の遠野における生活）に関する情報発信、③大学等によるフィールドワーク等への協力及びインターンシップ支援、④ワーキングホリデーの推進、並びにこれに係る地域通貨の発行管理及び運営、⑤受け入れ農家（ホスト）の開拓・支援並びに来訪者（ゲスト）とのコーディネート、⑥遠野市への移住・定住及び就農を希望する方に対する情報発信及び支援事業など、多岐に渡ります。

文学の街、盛岡城跡を中心とした歴史と文化の街、そして自然や農業と都市が調和した住みよい街として、移住希望者へのアピールを強化すべきであると考えます。今回の研修内容を、人が集まり、人が住みたくなる街づくりに活かして参りたいと考えております。



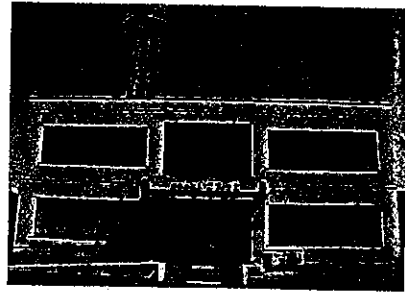
都市部からの高校の修学旅行も受け入れ、農業体験

2 秋田県。藤里町

「ひきこもり支援と就労施策に学ぶ」

8月24日、秋田県の藤里町社会福祉協議会に研修視察に伺って参りました。秋田県の北部、世界遺産・白神山地の麓にある藤里町は、人口3448人（2017年4月現在）冬は雪に閉ざされるこの小さな町のひきこもり支援が、全国から注目を集めております。

2010年、藤里町社会福祉協議会は、地域福祉の拠点として「こみっと」を開設しました。この施設は、介護予防の機能訓練室、食事サービスの調理室、カラオケや囲碁将棋を楽しむサークル室などを備えており、



福祉の拠点「こみっと」

婦人会や老人会など、各種団体の共同事務所
の提供も行なっている

おります。共同事務所内でのパソコンの操作訓練、お食事処「こみっと」におけるサービスの提供、白神まいたけキッシュづくりを通じた就労訓練など、ひきこもりの方々に対する様々な支援プログラムを行っております。藤里町社協の菊地会長は「ひきこもりとか高齢者とか特定せず、福祉サービスが必要な人に集まってもらう場所にしたい」と語っており、地域のいろいろな人が集うことで、ひきこもりに対する偏見を和らげる狙いもあり、着実に成功しているとのこと。

2012年には特産のマイタケと卵、生クリームを使って焼き上げる「キッシュ」を商品化し、初年度に450万円を売り上げ、町の名物として内外にアピールをする事ができました。この成功で、「こみっと」を見る町民の目が、「ひきこもりが集まる場所」から、「自立に向けて

頑張っている若者が集まる場所」に変わったそうです。このマイタケキッシュを活用した事業は現在、次のステップに移行しているとの事です。社協では、町民の45%以上を占める高齢者が活躍できる環境づくりを進めており、90歳以上のお年寄りも元気に参加しているといえます。

2010年以降の5年間で、人口3448人の町においてひきこもりが判明した113人中、86人が様々な支援により就職・自立し、現在では10人以下まで縮小しているようです。ひきこもりには当然、それぞれに理由があり、無理に引っ張り出すのではなく、来やすい環境、行きたくなる場所、居心地のいい場所を作った上で、様々な資格取得、就業訓練の機会を準備することが重要であると感じました。

「チナバンク」です。昨年6月より開始され、希望する収入や仕事時間、経験などに合わせて、藤里町社協が申請者と依頼先をマッチングします。300人以上が登録しており、社協が運営するレストランや、高齢者施設の清掃、高齢者宅の除雪作業など幅広い仕事を用意しています。働くことによって、高齢者の健康寿命の延伸にも効果があり、その上で町全体も活性化にもつながるといふ素晴らしい取り組みだと感じました。以前に一般質問でも取り上げましたが、藤里町のこうした取り組みを、今後盛岡市でも各地域に合わせた形で展開できないかと考えております。



藤里町名物「白神まいたけキッシュ」

命の延伸にも効果があり、その上で町全体も活性化にもつながるといふ素晴らしい取り組みだと感じました。以前に一般質問でも取り上げましたが、藤里町のこうした取り組みを、今後盛岡市でも各地域に合わせた形で展開できないかと考えております。

小林 まさのぶレポート 豪雨に対する 緊急防災！

今夏の西日本豪雨は、各地に甚大な被害をもたらしました。活発化した前線の影響で、近畿や四国を中心に記録的な大雨が続き、土砂崩れや河川の氾濫が相次ぎました。豪雨の死者は200人を超え、平成に入っで最悪の豪雨災害となりました。一方で、自宅などに被害を受けながら、早期に適切な判断をして生き延びた方達も少なくありません。

全国でも558ヶ所の治水ダムのうち213ヶ所のダムで、下流へ流れる水量を調整する「洪水調節」が行われたとのこと。『異常洪水時防災操作』が行われた野

村ダムの下流域にある愛媛県西予市では、氾濫による浸水被害で5人が死亡。鹿野川ダムや、野呂川ダムの下流域でも浸水被害が出ました。この異常な豪雨は、今や日本のどこにおいても起こる可能性があります。もし、盛岡が豪雨に見舞われ、四十四田ダムが『異常洪水時防災操作』による放流を行なった場合、駅から大通りを含む市街中心地が水没すると予測されております。市民一人一人が防災マップを参考に、しっかりとした対応をしていかなければなりません。

全国各地で豪雨災害が多発する中、火事や地震だけではなく、水害に対する防災教育の充実が早急に必要であると考えます。

1. 防災マップの盛岡市全戸配布と、その利用について

市は、これまでの防災マップや各種ハザードマップを統合し、主要河川の洪水浸水想定区域など、最新の情報を反映した新たな「盛岡市防災

マップ」を作成しました。



この新しい防災マップは、災害が発生した際、自分自身と家族の身を守るよう、普段から災害に対する備えをするとともに、災害に関する情報を正しく理解し、適切かつ安全に避難行動をとるための手引きとなるものです。まずはご自宅にある防災マップを開いて頂き、自宅・学校・職場などの周辺にどのような災害の危険性があるのか、また、最寄りの避難場所や避難経路の確認などを行なってみて頂ければと思います。

2. 災害が発生する前に（事前の準備について）

備えあれば憂いなしです。普段か

ら地震や水害などへの備えをしておきましょう。現在、防災に於いて全国で注目されているのが「マイ・タイムライン」です。これは、住民一人一人が自分自身のおかれている環境や状況に沿って、避難に必要な情報・行動を把握し、「自分の逃げ方」を災害発生の前に可視化し、まとめておくものです。具体的には、防災マップで自分の住む場所の被災の可能性や、避難場所や避難経路を確認し、避難準備や避難勧告が出た時点で、それぞれがどのような準備や行動をするかについて、時系列で書き起こしていく、という作業になります。これによって、発災時においても落ち着いた行動がとれるようになると考えられます。特に次の3点に關しては、事前の確認、準備が重要であると思います。

① 避難場所・避難経路を事前に把握！

地域ごとに、緊急・災害時に避難する場所（学校や公民館、集会所等）が定められております。『自分の住

んでいる地域の避難場所はどこなのか”そこへ安全にたどりつくためには、どのような道をたどればいいのか”ということも、普段から確認しておくことが大切です。

②事前の家族会議の開催！

災害はいつ何時起こるかわかりません。いざ災害が起きたときに避難する場所をお互いに確かめておいたり、災害時の連絡方法を考えておくなど、事前の家族会議が重要です。

③「緊急連絡ノート」の作成！

家族会議で話し合った内容を受けて、家族の職場や学校などの連絡先、家族の情報、災害時に重要と思われる事項などをノートに記入して置き、緊急時に備えておけば安心です。

3. 洪水時の避難方法と注意事項について

①避難警報には速やかに従うこと！

河川の水位は雨の降り方により、

急激に変化します。避難命令が発令された時、河川は相当に危険な状態になっていると予想されます。命に関わる被害を出さないよう、市町村、消防署、水防団などからの警戒警報・避難命令などに十分注意しましょう。

②避難する時は、みんなと一緒に！

避難する際は2人以上での行動を心がけましょう。単独行動では、避難の途中で洪水に流されたり、怪我をしてしまった場合、助けが来るまでに長い時間がかかり、命にかかわる状況を招きかねません。お互いの体をロープで結んで避難すればより安全に避難できます。

③持ち出す荷物はコンパクトに！

避難する際、荷物が多いと行動力が鈍り逃げられなくなってしまうことがあります。必要最低限のものだけを持ち出し、身軽に動くことを優先しましょう。

④お年寄りや子供を優先に！

避難する際、お年寄りや小さな子供などは、当然危険な目に遭いやすくなります。お年寄りや子供を最優先に、落ち着いて行動しましょう。

4. 非常持ち出し品の確認

非常時の持ち出し品チェックリストはたいせつです。日頃から最小限度の必需品の準備をしておけば、災害時の速やかな避難が可能となります。また、北海道で発生した震度7の地震に伴い、北海道全域で停電となりました。銀行のオンラインも停止。停電によってATMや電子マネー、クレジットカードも使えないという事態の発生を考えると、常にある程度の現金も備えておく必要性を感じました。

非常持出品チェックリスト

貴重品類

- 小銭
- 預金通帳
- 印鑑
- 健康保険証・免許証等(コピー)

避難用具

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 予備の乾電池
- ヘルメット・防災ずきん

生活用品

- 厚手の手袋
- 毛布
- ライター・マッチ
- ナイフ
- 携帯用トイレ
- ウェットティッシュ

救急用具

- お薬手帳
- 胃腸薬・便秘薬・持病の薬
- 生理用品

非常食

- 乾パン
- 缶詰
- 栄養補助食品
- アメ・チョコレート
- 飲料水

衣料品

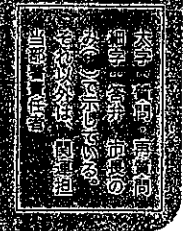
- 下着・靴下
- 長袖・長ズボン
- 防寒用ジャケット・雨具

その他

- 携帯用カイロ



6月定例会一般質問



健康増進施策について

■健康寿命と第2次もりおか健康21プラン

総務省の統計では、2025年、高齢者人口はおよそ3500万人に達すると推計されております。そうした中、健康上問題がない状態で日常生活を送れる期間、いわゆる健康寿命が注目されています。この健康寿命と、平均寿命との差を縮めることができれば、市民の生活をよりよくすることができ、社会保障費の軽減にもつながります。盛岡市においては、2015年より10年間の計画で、第2次もりおか健康21プランを策定し、市民の健康寿命延伸に取り組んでおります。プラン推進の上で

のこれからの課題についてお知らせ下さい。

もりおか健康21プラン推進の課題について、生活習慣病対策が重要と考えており、健康教室や健康イベントなど、市民に健康への関心を持っていただく取り組みに力を入れる必要がある。

■地域における健康増進の取り組み

各町内会では地域の保健推進員さんが、健康に関連した講座の開催など、様々な取り組みを行っております。今後、地域を支えるためには、多くの市民の協力が必要になってくると考えます。今後、保健推進員さんや食生活改善推進員さんの負担が増えないよう配慮しつつ、町内の公民館など小単位での健康教室の開催も重要な取り組みであると考えます

が、ご所見をお伺いします。

保健推進員については、介護予防ボランティアなど地域の活動に積極的に参加頂いており、食生活改善推進員についても、各地域において認知症予防などのテーマに沿った栄養教室やふれあい昼食会などを開催して頂いている。

町内の公民館など小単位での健康教室については、町内会の要望に応じて、保健師や作業療法士などが向いて実施しており、29年度は108回の開催となっている。身近な施設で開催することは、地域住民が参加しやすいほか、地域で活動する組織が連携して取り組むなど、さまざまな効果が期待できるものと考えている。

■もりおか健康得とくポイント事業の展開

今年度から取り組みが始まった、もりおか健康得とくポイント事業は、健康教室等に参加した市民にMORIOOJカードへのポイントを

付与するというものであります。今後本事業を基に様々な工夫をする事で、市民に対し健康増進における大きなインセンティブ（動機付け）を与えることができると期待しております。本事業の今年度の利用者数の目標と予定、またウォーキング教室との連携など今後の展開について、お知らせ下さい。

2018年度の事業目標については、市が主催する7回の教室において、430人の参加者を見込んでいます。

今後の展開については、青空ウォーキングなど健康教室の参加者へのアンケート調査の結果を検証しながら、対象事業を増やす、ポイント付与の方法を工夫するなど、健康づくりのきっかけとして有効な方法となるよう、推進してまいります。

■糖尿病対策

厚労省の国民栄養・健康調査によると、2016年時点で糖尿病が強く疑われる成人が1000万人以上

に上るとされ、その中でも23・4%が治療を受けていなかった事がわかりました。糖尿病は痛みが無いため、病気に罹っている実感がなかなか湧きづらいという点があり、重症化が進むと腎不全、網膜症からの失明、血流障害による足の切断など、最悪の結果に到ってしまう可能性があります。また、糖尿病の医療費に関しては国全体の4・4%、約1・2兆円を占め、糖尿病の重症化予防、未然予防は国や県、自治体にとっても医療費の削減につながるものと考えます。盛岡市の糖尿病患者とその医療費の推移、またそれについてどのように分析をされているか、お知らせ下さい。

本市で把握できるのは国保加入者の入院、外来を合わせたレセプト件数及びその医療費となるが、平成26年度が3万6020件で約11億7000万円、27年度が7万6505件で約11億2000万円、28年度は3万6313件で約11億2000万円となっている。

国保加入者が年々減少傾向にある中、受診件数、費用ともにほぼ横ばいとなっていることから、罹患者の割合及び1人当たりの医療費が増加しているものと分析している。

一人でも多く、糖尿病になるリスクを抱える方を見つけるには、やはり特定健診の受診率を向上させなければなりません。以前も議会においてコンビニを利用した健診について他市の事例を取り上げさせて頂きましたが、今後更なる民間との連携によって、糖尿病性腎臓症状の予防、受診の勧奨の取り組みを進めるべきと考えますが、いかがでしょうか。

本市に本社を置く医療系試薬・機器開発企業とドラッグストアが連携し、短時間で血液の無料検査を行う実証実験を4月から行っており、検査結果から特定健康診査の受診を促すなどの波及効果が期待される。

他の自治体においても、特定健康診査受診勧奨や予防施策において、民間事業者と先進的な取り組みを開始した事例があり、医療費抑制効果

等を含め、調査研究してまいりたい。

医療機関から提出されるレセプトのデータや、特定健診で得たデータを基にした、糖尿病の治療を中断している方や、糖尿病と診断されても治療を行っていない方に対する受診の勧奨については、効果がある取り組みと考えます。今後の予定はどのようになっておりますでしょうか。

(レセプト…患者が受けた保険診療に
ついて、医療機関が市町村や健康保険組合に請求する医療報酬の明細書)

本市においても過去のレセプトデータや特定健康診査の受診結果をもとに、対象を抽出し勧奨を行っており、特に市の保健師による直接訪問による指導が効果を上げている。今後とも訪問対象者をふやすなど、効果的な取り組みにつなげてまいりたい。

■脳疾患（脳卒中、脳梗塞） 対策

岩手県は平成22年度の厚労省の調査で、男女共に脳卒中による死亡率

が全国ワースト1となってしまう、盛岡市も脳疾患による死亡率が全国に比べ高い状況にあります。県の取り組みと連携しての脳卒中予防について、市の大まかな取り組み予定などがあればお知らせ下さい。

市としては、岩手県脳卒中予防県民会議に出席し、県と情報共有を図っているほか、減塩・適塩の啓発活動を共同で行っている。2018年度においても、県から協力をいただき、高血圧予防の食生活をテーマにした活動など、普及啓発に取り組んでまいりたい。

■脳ドックに対する助成

先日、脳疾患予防の観点から、市立病院で脳ドックを受診して参りました。盛岡市では人間ドックに助成を出しておりますが、人間の臓器の中でも最も大切といえる脳の病気を早期に見出し、早期の治療を可能とする脳ドックについても、助成を行うべきと考えます。脳卒中に恐れを抱きながらも、料金が高く躊躇して

しまう方もおられると思います。脳卒中の早期発見・早期治療につながる点から、脳ドックへの助成を行うべきと考えますが、ご所見をお伺いします。

脳ドックは、早期治療に効果的なものと認識しているが、その助成については、脳ドックや他のオプションを含めた人間ドックの適正な助成額や、他の保険者とのバランスを考慮する必要があり、慎重に判断してまいりたい。

(再質問) 脳ドックへの助成を行なう事によって、脳ドックを受けるハードルが下がる、また、脳ドック自体のアピールになると考えます。ある程度予算がかかる部分もあるかと思いますが、他の自治体では定員を設けるなどしているようです。脳ドックへの助成に関して前向きに検討していただけないかと思いますが、いかがでしょうか。

現在、盛岡市では、人間ドックについては2万円の助成を行っていますが、人間ドックは、年間で大体23

00人ほどの方が受けている実態があるが、この人間ドックのなかにオプションとして脳ドックも含めるという形で、2万円の助成を、年齢に制限を設けず行っている。花巻市や鹿角市などでは、脳ドックだけの助成制度をおこなっており、市においても脳ドックの助成を始めたときの費用負担など、少し整理をさせていただいて、助成を行なった場合の医療費の抑制効果についても、他都市の事例等を研究しながら検討させていただきたい。

岩手医大の矢巾町 移転に伴う盛岡市 の対応

岩手医大の矢巾町移転に伴い、3次救急医療機関である高度救命救急センターも矢巾町に移る予定と聞いております。盛岡市内の救急体制が変わることによって、様々な課題が生じるのではないかと、特に、重篤な脳梗塞のように一刻を争う事態に対

応できる機関が少なくなった場合、他の救急機関へのしわ寄せが懸念されます。盛岡市として医大移転後の救急医療に関してどのように対応していく予定なのか、また、市立病院の救急体制の充実については今後どのように行っていく予定なのか、ご所見をお伺いします。

(市長) 特にも医大がこれまで受け入れてきた初期救急患者の今後については、盛岡市夜間急患診療所の利用に係る周知の強化や、医療機関等に適正に受診するよう働きかけるなど、盛岡保健医療圏の7市町や郡市医師会、医大等関係機関との適切な対応について検討してまいりたい。また、医大移転後の市立病院の救急体制の充実については、いずれ今後医大から提示される具体案を踏まえ、市立病院の救急患者の適切な受け入れ体制を検討し、移転後にあっても盛岡保健医療圏の救急体制を維持できるよう努めてまいりたい。

中学生に対する ピロリ菌検査に ついて

WTO(世界保健機構)では、胃の中に住むピロリ菌を除去すれば、胃がんの発生をほぼ抑えられるという見解を公表しております。盛岡市の小児科医の皆様との懇談の席上、中学生に対するピロリ菌検査実施の要望を頂きました。懇談のなかで、尿検査でピロリ菌があるかがほぼ判明するとのことをお話を伺いました。これは、尿の中にピロリ菌と戦う成分である抗体があるかを調べる方法で、尿中抗体法というそうです。盛岡市の未来を担うであろう今の中学生を、一人でも多く胃がんという最悪のリスクから守るという意味でも、中学生に対するピロリ菌検査を行って頂きたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

県で設置しているピロリ菌検査課題等検討会において、30年度も引き

続き検討することとなっております、その結果を注視してまいりたい。

(再質問) 行政によるピロリ菌検査の実施は、岩手県内でも一関市、花巻市で行われております。検討会の動きを注視するだけではなく、他都市の事例を聞いてみていただくなど、調査をしていただきたいと思います、いかがでしょうか。

県で設置しているピロリ菌検査課題等検討会は、専門の医療機関の方、研究機関の方などが構成メンバーになっており、その中には市の医師会の代表や、行政側の代表ということで盛岡市も参加している。そういう部分もあり、この検討会の判断を尊重したい。

検討会においては、現在話し合われている内容、進捗状況など、市としても把握していると思えますが、ピロリ菌検査の実施について、今どういったところまで話が進んでいるのかをお聞かせ願いますでしょうか。全国の自治体の取り組み状況について、情報として県から提供い

ただ、検査の過程で見つかった課題については、子供の体調に差しさわりがあつた、対象とした年齢層によっては受験などに影響がある、あるいは個人のプライバシーについて地域で課題になったなどが挙げられている。そうした中で、実施に向けての課題を整理し、取り組むべきタイミングで取り組むといった、前向きな形で話し合いが持たれている。

盛岡市として検討会に参加しているということであれば、簡易な検査方法もあるというアピールもしていただきたい。尿中抗体法に掛かる検査費用は1人当たりおよそ700円前後と伺っております。試算した所、年間大体180万円程度の予算があれば、ピロリ菌検査が市内の全中学生に実施できるといふこととなります。盛岡市としても前向きに検討していただきたいと思えますが、実施について再度お伺いいたします。

尿の検査によっても(ピロリ菌に

感染している可能性があれば)そこで精密検査に移るなど、そういう流れもあると聞いていますので、そうした部分も整理して検討を進めてまいりたい。

無電柱化(電線の地中化)について

盛岡市においては現在、中央通りや映画館通り、八幡町の通りなど、観光客が行きかうような路線

において電線の地中化がなされております。また、速いスピードで電柱に衝突した場合の被害を考えると、国道4号線や西パイパス、盛岡市道においても無電柱化の整備が進んでおります。以前、市の無電柱化推進計画については、策定に向け取り組んでまいりたいとの答弁を頂きましたが、その後の策

定の進捗状況はいかがでしょうか。また、市として、県や国と連携したしっかりとした計画を立て、県や国にアピールしつつ、予

算確保を行なって頂きたいと考えますが、ご所見をお伺いします。

(市長) 国土交通省が2018年4月に策定した無電柱化推進計画においては、防災や安全で円滑な交通の確保、景観形成、観光振興等の観点から、無電柱化の必要性の高い道路について重点的に推進することとしている。当市においても、国の計画や方針を参考としながら、国や県と連携し、市の無電柱化計画の策定に取り組んでまいりたい。

また、予算の確保については、国への統一要望等の道路事業に係るさまざまな要望活動を通じて、市の無電柱化計画を説明しながら、国の交付金の確保に努めるとともに、効率的な整備手法を活用することで、コストの削減を図りながら無電柱化に取り組んでまいりたい。

■鉈屋町、もりおか町家物語館周辺の無電柱化

この歴史情緒あふれるまち並みの中を電線が通り、電柱が立ち並んで

いる状況では、観光客に失望を与えてしまうのではないかと考えます。現在、市としても、地元地域の皆さんとの協議を行なっているかと思いますが、その回数や内容についてお知らせ下さい。また、国との連携について、工事手法についての勉強会等もおこなっているとの事でしたが、そちらについても回数、内容についてお知らせ下さい。

鉈屋町やもりおか町家物語館周辺地域での協議について、平成28年10月に鉈屋町、南大通二丁目、南大通三丁目、大慈寺町、神子田町の5町内会を対象に、事業の概要や調査の実施などについて、合計で4回の説明会を開催している。また、無電柱化への機運醸成のため、平成29年度に市民協働推進事業において、NPO法人と協力しながら、地元の皆様とのワークショップを4回開催するとともに、無電柱化の先進地視察なども実施している。

次に、国との勉強会については、平成28年6月に仙台で開催された無

電柱化に関する勉強会に出席し、国土交通省東北地方整備局より無電柱化推進のための情報提供をいただいたほか、盛岡市における無電柱化の事例紹介を行っており、平成28年12月には国土交通省若手河川国道事務所に鉈屋町を視察していただき、また同地域の取り組みを報告しながら、方式等に係る全国事例等の紹介やアドバイスをいただいたところである。

ヘルプマークの周知について

ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方や、外見からは分かりにくい障害や難病を抱えた方、妊娠初期の女性などが身につける事で、周囲からの配慮や手助けを得やすくするという目的で作られたもので、平成24年に東京都がマークを表記したカード、ヘルプカードの作成・配布を開始した事を皮切りに、各地に広まっております。市と

しても今後、障害を持つ皆様が安心して外出できるまちづくりのため、また市外から盛岡に来られる障害者の皆様にも安心して盛岡を楽しんで頂ける環境づくりのために、ヘルプマークの更なる周知に努めるべきと考えますが、ご所見をお伺いします。

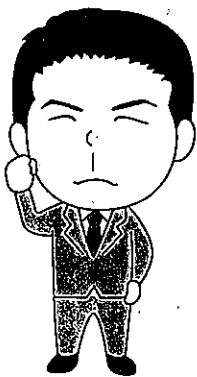
(市長) 外見からは障がいのある方がわかりにくい方や、援助や配慮を必要とする方がヘルプマークを身につけることは、周囲の援助を得やすくするということであり、共生社会の実現に資するものであると考えている。ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピック・パラリンピックなど、障がいのある方が盛岡を訪れる機会がふえることが見込まれることから、マークを周知することは、重要な取り組みと捉えている。

■ヘルプカードの配布

東京都を始め様々な自治体では、ヘルプマーク、又はヘルプカードを無料で配布する取り組み

を行なっております。ヘルプカードは、主に氏名、緊急連絡先、障害や病名、症状、必要な支援・配慮を書き込めるようになっており、持ち歩くことで緊急時、災害時など支援が必要な場面に効果があるとされております。盛岡市における、ヘルプマーク、あるいはヘルプカードの配布について、ご所見をお伺いします。

(市長) ヘルプマークやヘルプカードの配布については、市独自の配布は想定していないが、ヘルプマークについては東京都のホームページから、またヘルプカードについては同じ趣旨のお願いカードを県社会福祉協議会のホームページからダウンロードできるように、当市のホームページからリンクする環境を整えてまいりたい。



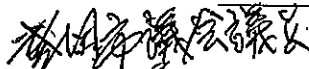
政務活動費支払伝票

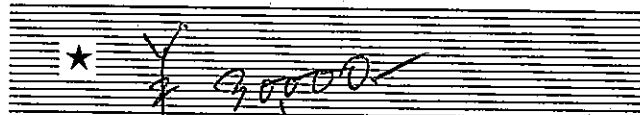
使途項目	広報費	支出日	2月19日
------	-----	-----	-------

支出証拠書類の額面金額	30,000	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	30,000	円
【支払概要】 広報作成委託費		

領収書等添付欄

領 収 証

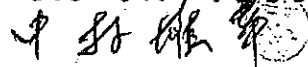

 小林 昭之 様 平成 21 年 2 月 19 日



但 小林昭之 通信 Noll 制作費 per
 上記正に領収いたしました

内 訳
 税抜金額
 消費税額等(%)

N・T・P創造開発研究所
 〒020-0121 盛岡市月が丘1-24-17
 Tel&Fax 019-647-1292




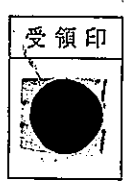
政務活動費支払伝票

使途項目	広報費	支出日	3月1日
------	-----	-----	------

支出証拠書類の額面金額	68,040	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	68,040	円

【支払概要】 広報印刷経費
 ※A4サイズ4ページ立て、3000部

領収書等添付欄

領 収 証		No. 005031
		平成 31 年 3 月 / 日
公明党 小林正信 殿		
領収金額	¥ 68,040	
但 通信NO.11 3,000枚印刷代として 上記金額正に領収致しました。(P4)		
入金内訳	現金	✓
	小切手	
	約束手形	
	振込	
	その他	
		受領印 
		〒020-0827 岩手県盛岡市 小松総合印刷株式会社 電話 (019) 624-1374 FAX

政務活動費支払伝票

使途項目	広報費	支出日	3月1日
------	-----	-----	------

支出証拠書類の額面金額	18,954	円
支出按分率 (※按分が必要な場合)		
政務活動費支出金額	18,954	円

【支払概要】 広報ポスティング経費
 ※1部6.5円×2700部

領収書等添付欄

領 収 証

No. 025113

平成 31年 3月 1日

小林正信 様

金額 71,895.4

収入印紙

上記の通り正に領収致しました。

但 3/5(火)ポスティング代として

内訳 2,700部×6.5円

現金
 小切手

消費税額等()%



Aobaya

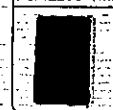
株式会社 アオバヤ アドポス事業株式会社

- 盛岡センター T020-0866 盛岡市本宮2-37-6
- 山形センター T990-0813 山形市桂町3-8-34
- 仙台北センター T981-3121 仙台市泉区上谷刈2-7-7
- 仙台南センター T981-1224 名取市増田字柳田240-101
- 福島センター T960-8165 福島市吉倉字吉田120-1
- 郡山センター T963-0107 郡山市安積3-120
- 宇都宮センター T321-0932 宇都宮市平松本町362-6 101号
- いわきセンター T970-8022 いわき市平塚字風内71-1
- 水戸センター T310-0913 水戸市貝川町2131-150
- 新潟センター T950-0853 新潟市東区泉明2-4-4
- 船橋センター T273-0022 船橋市河神町2-237
- 前橋センター T379-2153 前橋市上大島町121-3
- 函館センター T041-0824 函館市西信使町589-55
- 米沢センター T992-0021 米沢市大字花沢257-2

- tel.019-656-8111
- tel.023-682-6076
- tel.022-371-1154
- tel.022-383-2364
- tel.024-503-4951
- tel.024-937-5985
- tel.028-610-1537
- tel.0246-35-6033
- tel.029-244-0952
- tel.025-287-1153
- tel.047-495-3116
- tel.027-261-6558
- tel.0138-49-1035
- tel.023-824-6076



担当者印



※金額を訂正したものの扱印のないものは無効です。

小林まさのぶ通信

メール: kbycsonotoki@yahoo.co.jp

昭和52年10月31日

盛岡市、中屋敷町生まれ。

私立岩手高校卒。

創価大学文学部人文学科卒。

民間企業勤務を経て、平成18年から

実家の看板会社を継ぐ。

盛岡市議会広報委員会委員

盛岡市教育福祉常任委員会委員



発行 小林まさのぶ 〒020-0041 盛岡市境田町10-35/A-201号
TEL: 090-6450-7618 Fax: 019-618-3181

2019年、平成最後の年となりました。2015年の初当選以来、皆様から温かなご支援を頂きながら、市民福祉の向上に全力で取り組んで参りました。今回は、市民の皆様からご指導・ご協力を賜りながら積み上げて参りました、私の活動、及び実績をまとめさせて頂きました。どうか今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。



盛岡市議会議員

小林まさのぶ

小林まさのぶ1期4年の主な実績・活動

1. 安全・防災・減災

- ・国交省、国土交通大臣に要望！
境田川原踏切の改良・盛岡西バイパス延伸・鉈屋町の無電柱化
- ・境田川原踏切の拡幅工事实施を訴え実現！
- ・国交省大臣、市長と共に視察。周辺の改善安全対策を推進。
- ・東日本大震災、被災地訪問し被災住民から状況情報収集と要望聞き取り。
- ・2016年8月台風10号豪雨土砂災害に見舞われた岩泉町へ。
自ら泥上げ作業をすると共に被災住民より要望聞き取り。



境田川原踏切の調査踏

2. 医療

- ・健康増進、介護予防に取り組む市民に対するヘルスケアポイント導入を提言、実施へ。
- ・脳ドックへの助成について提言
- ・岩手医大移転に伴う市内の救急体制充実のため、盛岡市立病院の救急体制のさらなる整備を提言。
- ・中3年生に対する学生のピロリ菌検査の実施を要望



昨年9月土砂災害被災地 岩泉町安家地区

3. 子ども・若者支援分野

- ・若者雇用促進法について取り上げ若者就職支援、盛岡への定着化推進を訴える。
- ・奨学金返済を免除する制度について取り上げ、保育士の奨学金返還支援制度の実施へ。
- ・子ども未来基金から、子ども食堂を立ち上げる団体へ財政支援を提言し実現。
- ・子どもの貧困対策として全庁的な取り組みを訴え、子どもの貧困対策実効計画策定へ。
- ・子ども・若者のためのワンストップの相談窓口の設置を提言
- ・SNSを利用した若者の就職支援、地元定着へのアピール、情報発信について提言
- ・ひきこもりの回復支援を提言、ひきこもりのモデル事業実施へ。
- ・スクールガードの支援を訴えると共に、自らも週一回小学生の帰宅時間帯に着任。
- ・フリースクールと学生、教育委員会との連携を提言。

4. その他の実績・実行

- ・インフラ施設を活用した観光振興「インフラツーリズム」を取り上げ推進を提言。
- ・食品ロス削減の取り組みを提言、盛岡市役所にフードポスト設置を提案し実現！
- ・期日前投票所の増設の提言と実現。
- ・「子育て支援アプリ」の活用を訴え、子ども未来基金による実施へ
- ・ボランティア活動促進のため「ボランティアポイント制度」導入を提言、30年度より実施へ。
- ・「認知症カフェ」への支援について提言。
- ・起業家によるビジネスプラン、ビジネスモデル発表会のイベント開催を提案、実施へ。



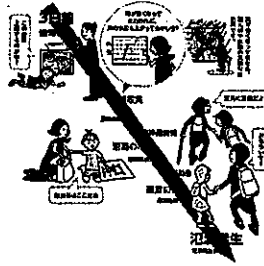
盛岡市役所に
フードポスト

■マイ・タイムラインの周知について

大規模な水害に備え「いつ、誰が、何をするか」等、事前に取り組むべき対応を時系列でまとめた、「タイムライン」の導入が各地で広がっています。住民一人一人の逃げ遅れを防ぐため、当市においても個人が記入できるようなタイムライン、いわゆる「マイ・タイムライン」のフォーマットを作成、周知すべきと考えますが、いかがでしょうか。

マイ・タイムラインの作成については、住民の皆様の自発的な早期避難につながるものと認識しており、今後各地域においてマイ・タイムラインの考え方を取り入れ、地区防災計画を作成してまいります。

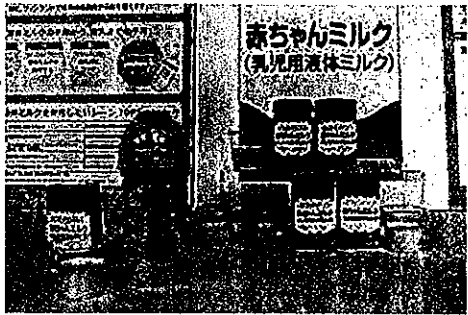
また、災害時要援護者や各福祉事業者に対するマイ・タイムラインの作成について、浸水想定区域や土砂災害警戒区域内の福祉施設の管理者等に対し、タイムラインの考え方を取り入れるよう支援してまいります。



■液体ミルクの備蓄について

液体ミルクは、常温で保存でき、粉ミルクのようにお湯で溶かしたり、哺乳瓶の洗浄や消毒をする必要がなく、清潔な水の確保が難しい災害時、赤ちゃんの命をつなぐ栄養源となる事が期待されます。市においても今後、災害時の備蓄品に液体ミルクを加えるよう検討してはいかかかと考えますが、ご所見をお伺いします。

液体ミルクについては、乳児の避難に対応するため、今後の市販の状況を見ながら、備蓄と調達両面で検討してまいります。

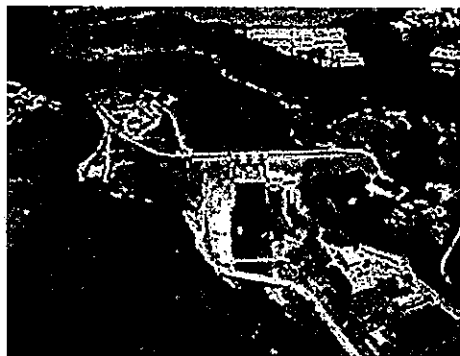


■四十四田ダムの浚せつについて

報道によると、四十四田ダムについては、土砂の堆積がかなりの量になっているとの事ですが、浚せつができない事情があるようです。そのため短時間での集中豪雨の際は、流入雨量はそのまま放出雨量となり、西下台から大沢川原、明治橋までが危険な状況となる事が予想されます。現時点での浚せつ工事に関する市と国土交通省との交渉状況はいかがでしょうか。

四十四田ダムについては、平成30年6月に北上川水系河川整備計画が変更され、ダムの洪水調節機能向上が位置づけられ、かさ上げの新規事業が計画されている。現時点における計画内容は、洪水調節容量を現在の約1.2倍に増やし、平成31年度より実施計画調査に着手できるよう、予算要求を行っている。と伺っている。

近年の全国的な降雨状況を考慮した時、早期の事業完了が市内の安全確保にとって重要であり、市としても事業に協力するとともに、事業促進の要望を行ってまいります。



四十四田ダムの貯水量

四十四田ダムには1,196㎥(盛岡市の2.4倍)に降った水が集まります。大雨のときは下流に被害の無い程度の水だけを流し残りをダムに貯めます。水の貯まる量は4,710万ℓ(県庁舎の552倍)です。

■公営住宅について

盛岡市の公営住宅における、若年世帯・子育て世帯の居住確保支援の取り組みについてお知らせください。また、若年世帯・子育て世帯が入居しやすい環境づくり、例えば入居条件を緩和するなどの取り組みに関しても、今後行っていく必要があるかと考えますが、ご所見をお伺いします。

子育て世帯の入居に対する配慮に関しては、現在建てかえ事業を行っている市営青山二・三丁目アパートの募集の際、2DK、3DKの住戸を子育て世帯用として優先入居を行っている。

また、小学校就学前の子供がいる世帯には、入居収入基準の緩和を行っているが、さらなる取り組みとして、子育て世帯が入居しやすい制度づくりの研究を行ってまいります。

公営住宅の入居を希望する際、連帯保証人の確保ができず、入居が困難な方が多くおられると伺っております。国土交通省においてはこの度、自治体に示してきた条例のひな形を見直し、連帯保証人を必要としないこととする通知を发出了。今般の通知を受けての市の対応について、お知らせ下さい。

入居希望者の中には連帯保証人をつけることが難しいなどの課題がある方もおり、家賃滞納の際の納入指導や、連帯しての履行を求める必要があるなど、一律に連帯保証人の免除を行うのは難しいものと考えている。家賃債務保証会社の活用を含め、連帯保証人制度全般について、他都市の事例も踏まえながら調査研究している。

■業務分解

「業務分解」の効率化と働く人の観点から、介様々な理由で就供する仕組み作業務分解につ肢の広がりが期は市として取り援事業を受託し体験等の訓練をる企業などからと、研究してま

きのぶ

な質問と答弁

年 2月定例会

■ミッシングワーカーへの支援について

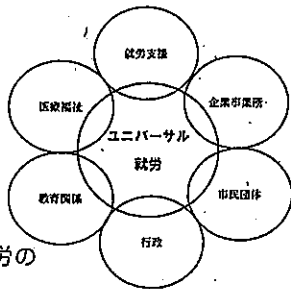
「ミッシングワーカー」は、アメリカの労働経済学者の間で提唱されている考え方で、求職活動をしていないため、雇用統計上の「失業者」に反映されない状態の事を指します。今後、40代、50代のミッシングワーカーの増加を考えた時、相談者の状況に合わせたきめ細かい就労対策が必要であり、その上から無料の職業紹介所を設置すべきと考えますが、ご所見をお伺いします。

市では生活困窮者に対する就労支援対策として、内丸分庁舎内に生活困窮者自立相談支援機関である盛岡市くらしの相談支援室を設置しているほか、生活保護受給者や生活困窮者などを対象としたハローワーク盛岡就労支援コーナーを設置しており、生活困窮者就労準備支援事業と合わせた3事業が互いに連携し、相談者の状況に合わせたきめ細かな支援を行っており、現時点では市単独の無料職業紹介の設置は考えていない。

■ユニバーサル就労の周知について

「ユニバーサル就労」とは、障害の有無に関わらず、様々な理由で働くことに困難を抱える方を支援する仕組みを指します。市民や市内の企業にユニバーサル就労の理念を周知する事によって、誰もが働きやすい、誰もが活躍できる盛岡市を目指して頂きたいと考えますが、いかがでしょうか。

就労に課題を抱える方がその人に合った働き方で社会参加していくことは、地域で生活していく上で大切なことであり、盛岡市地域福祉計画の基本理念である「共に支え合い、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現」にも通じるものと考えており、ユニバーサル就労の理念の市民や企業への周知については、他都市の取り組みなど研究してまいりたい。



ユニバーサル就労の関連概念図(例)

■子ども・若者地域支援協議会の設置について

市においては、複合的な困難を抱えた子ども・若者の多様な相談に応じる為のネットワーク「もりおがユースネット」に、26団体が参加・登録をしております。この「もりおがユースネット」に、子ども・若者育成支援推進法に規定されている「子ども・若者地域支援協議会」の機能を持たせ、より一層子ども・若者に対する支援を充実させて頂きたいと考えますが、いかがでしょうか。

ひきこもりの相談に対しては、岩手県精神保健福祉センター内にある岩手県ひきこもり支援センターへつなぐなど、他の専門窓口との連携を図っている。市保健所に子ども・若者総合相談センターを設置することについて他都市における状況等も調査しながら、研究をしてみたい。

くらしの相談支援室を含め、市民の生活上の相談に応じる窓口で、子供・若者について専門的な対応を要する場合には、岩手県の青少年なやみ相談室など、専門の相談窓口の紹介や情報提供を行っており、今後も関係機関との連携強化を図ってまいりたい。

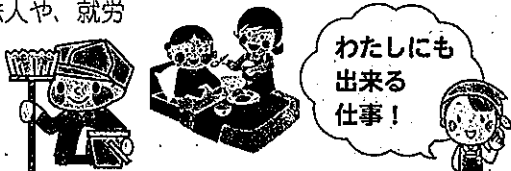
「もりおがユースネット」に教育、福祉、医療の関係者を加えて、子ども・若者地域支援協議会の機能を持たせることについては、子ども・若者地域支援協議会の趣旨と共通する部分があり、引き続きひきこもりやニート支援など個別の事案に対し、市として団体相互の連携を促していくとともに、子ども・若者地域支援協議会の機能を持たせることの可能性について、意見交換をしてみたい。

■取り組みについて

社の業務を整理し、新たな仕事づくりを行う事で、業務出を可能とする取り組みです。人手不足解消、就労支援施設、保育所、また配送業者など民間企業と連携し、難な方達に、業務分解の手法を用いて働く場と機会を提進して頂きたいと考えますが、いかがでしょうか。

、一般就労が困難な方の働く場所の増加や、職種の選択することから、有効なものとする。現在業務分解の手法がないが、一般就労が困難な方を対象にした就労準備支

NPO法人や、就労
れてい
聞くない。



■フリースクール等との連携

多様な学び方の推進、不登校児童・生徒の包括的支援の観点から、学校と、フリースクールを含めた様々な居場所との連携を強めていくべきと考えますが、ご所見をお伺いします。

学校で行われるケース会議に指導主事が参加し、必要に応じて医療機関や子ども未来ステーション、放課後デイサービス、発達障がい者支援センターなどの支援機関との連携を進めるほか、状況に応じて、子ども食堂や子供に対する学習支援事業について紹介をするなど、連携が図られるよう取り組んでいる。

学校とさまざまな居場所との連携、不登校児童生徒の包括的支援の強化については、市教育委員会として、フリースクールを訪問し、児童生徒の様子を把握したり、互いに情報交換したりしております。今後も個々の不登校児童生徒に応じた多様な支援が行われるよう、努めてまいりたい。

小林まさのぶの 研修視察 レポート

佐賀市「スチューデント・サポート・フェイス」を視察

会派の視察で佐賀市に赴き、不登校対策やひきこもり支援、学習支援、就労支援などを一体的に行うNPO法人「スチューデント・サポート・フェイス」を視察させて頂きました。アウトリーチ（訪問型）支援を基本として取り組みを進めており、相談者との人間関係の構築は勿論、相談者の生活実態を実際に目で確認する事の有効性、相談者の家族も含めての支援という点から、今後アウトリーチの重要性は増してくるものと感じました。



盛岡市において
も今後、ひきこも

り、ニート対策においては、より柔軟かつ多様な支援を可能とする、アウトリーチ支援を行う民間団体についても、更に連携、支援を行っていくべきと考えております。スチューデント・サポート・フェイスではアウトリーチのみならず、県や市、他の支援団体と連携して、重層的な支援ネットワークを構築し、子ども、若者の社会参加、自立へと結びつけており、当市にとっても大変参考になる視察となりました。

千葉市「ユニバーサル就労ネットワークちば」を視察

佐賀市の視察の後は「ユニバーサル就労発祥の地」と言われている千葉市にあるNPO法人「ユニバーサル就労ネットワークちば」を視察させて頂きました。ユニバーサル就労とは、障害の有無に関らず、様々な理由で働くことに困難を抱える方の就労を支援する仕組みを指します。「ユニバーサル就労ネットワークちば」では、相談者と一緒に、相談者自身の特性、置かれた環境をしっかりと捉えなおし、分析した上で、就労支援、企業との交渉に取り組んでおり、場合によっては相談者にあった会社を探して、飛び込み営業のような形で、面接をお願いするような取り組みも行なっているとの事でした。現在は陸前高田市と協力し、ユニバーサル就労の拠点を作る取り組みを進めているとの事で、県内においてもユニバーサル就労を実践する動きが出始めている所です。盛岡市においても、市民、そして市内企業にユニバーサル就労の理念を周知する事によって、更に誰もが働きやすい、誰もが活躍できるまちを目指して頂きたいと考えております。



**「二十歳の政治意識調査」
アンケート実施
要望書を教育長に提出**

1月13日に行われた成人の日記念式典の会場の一隅をお借りして、市内に住む青年の皆さんの協力によるアンケート「二十歳の政治意識調査」を実施致しました。今年には132名の新成人の方から回答を頂き、このアンケート結果を踏まえ、1月31日、若者に必要とされる取り組みについて、要望書として盛岡市の教育長に提出致しました。今回のアンケートでは、若者の政治、または投票への関心が年々低下している傾向が見られる一方、政治を身近に感じる、と答える新成人が昨年よりも増えており、選挙や地域活動、議員や行政との交流によって、自分達の意見を政治に反映させる事が、決して不可能ではないとの認識が持てるよう、今後更に若者の政治意識の啓発を進めていかなければならないと感じました。

小林まさのぶ通信

メール: kbycsonotoki@yahoo.co.jp

昭和52年10月31日
盛岡市、中屋敷町生まれ。
私立岩手高校卒。
創価大学文学部人文学科卒。
民間企業勤務を経て、平成18年から
実家の看板会社を継ぐ。
盛岡市議会広報委員会委員。
盛岡市教育福祉常任委員会委員。



発行者:小林正信/〒020-0041盛岡市境田町10-86 A201
携帯:090-6450-7618 Fax:019-618-3181



盛岡市議会議員

小林まさのぶ

2015年の初当選以来、皆様から温かなご支援を頂きながら、市民福祉の向上に全力で取り組んで参りました。

今回は、3月議会の内容と、市民の皆様からご指導、ご協力を賜りながら積み上げて参りました私の活動、及び実績をまとめさせて頂きました。どうか今後とも、変わらぬご指導、ご支援、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

小林まさのぶ1期4年の主な実績・活動

1. 安全・防災・減災

①境田川原踏切、拡幅工事実施！

平成29年5月、石井国土交通大臣に境田川原踏切の改良、国道46号盛岡西バイパスの延伸、鉾屋町の無電柱化を要望するため、国交省を訪問しました。また、境田川原踏切を石井大臣、谷藤盛岡市長に視察して頂き、本年、拡幅工事が実施される運びとなりました。併せて周辺道路の改善、安全対策を推進致しました。



境田川原踏切の調査：石井国土交通大臣、市長と共に

②現場第一主義！被災地へ！

2015年の当選以来、毎年東日本大震災の被災地を訪問。被災された住民の皆様から状況を伺い、県や国に要望。また、2016年、台風10号被害に見舞われた岩泉町を訪問、自ら泥上げ作業をすると共に、住民の皆様より要望を伺い、県・国へとつなげる取組みを行なって参りました。



昨年9月土砂災害被災地岩泉町安家地区へ

盛岡市役所に
フードポスト



実績は第4面に続く→

③盛岡市の備蓄米の有効利用を提言！

3月定例会においてフードドライブ実施を提言！

災害時の非常食として盛岡市が備蓄しているアルファ化米。期限の迫ったものをフードバンクに提供することを提言。また、各種イベントで、各家庭で余っている缶詰や乾物、お米などの

食品を集め、NPOを通して生活困窮者や一人親世帯など、必要とする人たちに届けるフードドライブの実施を提案致しました。

この広報紙は政務活動費で作成しています。市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

新産業等用地を中心とする 新たな産業振興プロジェクトについて

◎福島県は「福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想」を立ち上げ、県内の産業振興を図っております。盛岡市における新産業等用地の整備事業も、未来を見据えた構想力という点において、劣らないものであると考えております。市の未来を見据えた上で、福島イノベーション・コースト構想に比するような、新産業等用地を中心とする新たな産業振興プロジェクト、構想を立ち上げ、以って人口減少対策、雇用創出、学術振興など、多分野にわたる課題解

決、施策推進に当たるときと考えますが、ご所見をお伺いします。

▲新たな産業振興プロジェクトの立ち上げについて、平成31年度には、成長分野拠点形成事業に取り組み、成長が見込まれる医療福祉機器製造の振興を図るとともに、県のプロジェクトと連携しながら、地域経済を牽引し、10年後20年後につながるよう産業の集積を図り、当市の産業振興の新しい拠点形成に取り組んでまいりたい。

「緊急自然災害防止対策事業費」活用について

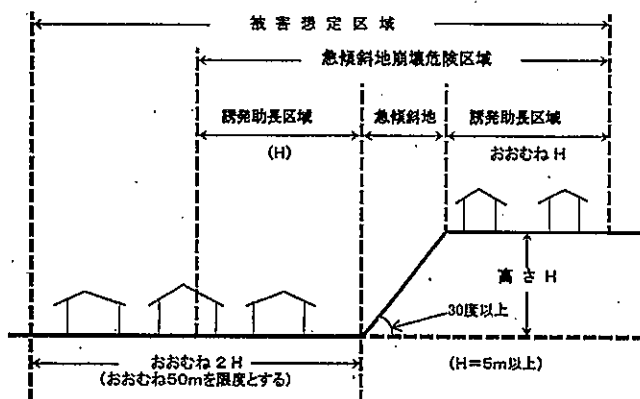
◎国においては、重要インフラ等の早期整備を期して「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に7兆円を充てて取り組むとしております。またこの緊急対策と連携し、新たに「緊急自然災害防止対策事業費」を計上し、地方財政措置を講ずるとしてしております。この緊急事業費の対象については、治山、砂防、地滑り対策、急傾斜地崩壊対策、河川、農業水利施設などが挙げられております。

調査では、盛岡市には土石流が発生する危険がある箇所が369ヶ所、危険な急傾斜地が218ヶ所あるとされ、盛岡市防災マップにも反映されている所であります。市として、この緊急自然災害防止対策事業費の活用については、どのように考えておられるのか、お伺いします。

▲緊急自然災害防止対策事業は、国庫補助の要件を満たさない地

方自治体の単独事業を対象とし「緊急自然災害防止対策事業債」を充当できるよう新たに創設されたものである。今後、国から詳細な基準等が示されるとのことであり、情報収集に努めるとともに、急傾斜地等の危険箇所解消にかかる事業への活用について、検討を行ってまいりたい。

急傾斜地崩壊危険区域



※「被害想定区域」とは、急傾斜地の崩壊により被害を受けるおそれのある区域です。なお、被害の実績のある場合は、その実績を用いることもあります。

盛岡西バイパスの延伸について

◎これまで市長は盛岡西バイパス延伸の要望を国に対し積極的に行い、2018年度の国の予算において調査費が盛り込まれました。この延伸により、4号線の渋滞緩和と合わせて、市内から移転する岩手医大へのアクセス性が向上し、緊急時の連携体制の充実が期待されます。早期の事業着工、完成が望まれますが、延伸に関する今後の予定について、市として把握している情報があればお知らせ下さい。

また、市として今後も、国に対し早期完成の要望を行なって頂きたいと考えますが、いかがでしょうか。

▲現在、国において、盛岡西バイパスの延伸となる「国道4号盛岡南道路」の「計画段階評価」が実施されており、平成31年1月まで行われた地域住民等へのアンケート調査結果を踏まえながら、検討を進めていくと伺っている。

国道4号盛岡南道路の整備により、盛岡市都市圏の渋滞解消や都市機能の集積強化のみならず、岩手医科大学付属病院の移転に伴う医療体系の強化につながるものと考えており、引き続き県や矢巾町等と連携しながら、道路関係団体要望や本市の統一要望等、様々な機会をとらえ、国に強く要望していく。

小林ま

市議会の質問 3月定例会

<主な質問項目> ◎質問

いじめ防止のための SNS相談事業の導入

◎いまや中学生でも5割、高校生では9割の学生がスマートフォン・携帯電話を保有しており、気軽に相談できるのは圧倒的にSNSなのであります。以前私の質問の中で、長野県とLINE社の提携によるSNSを活用した相談業務が好評、かつ有用であった事例を紹介させて頂きました。そうした成果を受け、政府の18年度予算の中に、いじめ防止のためのSNS相談事業が盛り込まれ、さっそく、北海道や大阪府、東北では仙台市など、19都道府県11市でSNS相談事業が実施されました。文科省・厚労省共に19年度

クラウドファンディング ふるさと納税の導入

◎起業を考えている若い世代の新たな発想、新たな挑戦を応援するという意味で、クラウドファンディング等による後押しは重要であると考えます。以前、市長は、投資型クラウドファンディングについて、中小企業や小規模事業者の資金調達に有効であり、その周知を図るとともに、市が資金を集めることとなるクラウドファンディング型のふるさと納税の導入についても検討してまいりたい、と答弁なさいましたが、その後の検討状況はいかがでしょうか。(※クラウドファンディング型ふるさと納税=地域課題の解決に資する事業を立ち上げる起業家に対し、事業に共感する方々から市がふるさと

いて

更なるSNS相談体制充実のため費用を計上しております。こうした予算措置がある以上、市としても具体的に導入計画を策定していくべきと考えますが、ご所見を聞かせください。

SNSによる相談を導入すること子どもたちが気軽に相談でき機会を増やすこととなり、有効なと考えられる。平成31年度

まずはメール
活用した相談
試験的に取り
予定である。



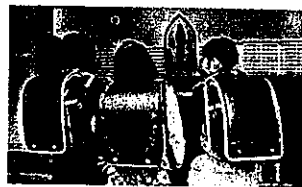
の
て

を活用して資金を集め、それ(投資として補助を行う仕組み。)起業家の資金調達においては、政策金融公庫の融資やファン(投資、制度融資)の活用が多いが実情であり、クラウドファン(クラウドファンディング)型ふるさと納税の活用にも示す起業家は、現時点でい(こと)もあり、他都市の事例を(している)段階である。本市と(は、3月13日に開催される地(クラウド交流会等)において、参(る)起業家に対して、この仕組(通じて)資金調達する意向があ(、その)把握に努め、必要に応じ(の)実施について検討してまい(い)。

小中学生の荷物の重量化について

◎文科省は「児童生徒が登下校時に持ち運ぶ教科書、教材、学用品の重さや量に配慮するように」という旨の事務連絡を発出しました。全国の親御さんからは、小中学生の通学カバン・ランドセルが重すぎるという声、健康被害を懸念する声が上がっており、メディア等でも取り上げられております。ある調査では、ランドセル・カバンを含めた小学1年生の荷物の重さは平均6.7キログラム、中学生では平均8.3キログラムもあるとのこと。重量化の原因は、10年間で34%とも言われている教科書ページ数の増加や、教材のカラー化、大型化に加え、熱中症対策の水筒や雨具、時には書道や図工の道具、体操服に給食袋など、学校へ持っていく

物が非常に多いとのことです。先の文科省の事務連絡を受け、どのような対応・対策をしているのかについてお聞きします。



▲市教育委員会では、文部科学省から例示された「児童生徒の携行品に係る工夫例」を参考に、必要に応じて適切な配慮を講じるよう、各学校に対して指導を行った。各学校では、日常及び学期始め学期末などにおける携行品の重さや量について改めて検討し、登下校時の負担を軽減したり、安全を確保するなど、取り組みを行なっている。

家庭学習に必要としない教科書や教材を学校に置く「置き勉」について

◎家庭学習において必要としない教科書や教材を学校に置いて下校する、いわゆる「置き勉」について、市内の小中学校では実施されているのか、お知らせ下さい。

▲教科書や教材を学校に置いて下校することを認めている学校は、小学校で42校中33校、中学校で23校中14校である。また、認めていない学校に

おいても、副読本、資料、習字道具などの学習用具を学校に置かせるなど、何らかの配慮を行っている。



教育委員会相談業務におけるSNSやメールを活用し取り組みについて

◎総務省の調査によると、9割の若者世代がLINEを利用しているとの事です。「盛岡いのちの電話相談」においても、全体の電話相談件数は増加しているものの、20代以下からの割合は年々減少しているといえます。若者にとって、電話をかけるという行為は非日常であり、まして深刻な相談をするためには、周囲に聞かれない状況を作ってからダイヤルをしなければならず、そうし

た事情が、電話相談に対するハードルをあげていると考えられます。私が以前質問させて頂いた教育委員会の相談業務における、SNSやメールを活用した取り組みについての研究状況についてお知らせ下さい。

▲現在、先行実施している自治体から対象者の範囲、相談日時、相談体制などについての情報を収集しながら、導入について検討している。

子ども食堂事業に特化したクラウドファンディングの活用について

◎クラウドファンディングは、投資する側が事業やプロジェクトに共感し、資金を提供するという仕組みであります。クラウドファンディングで子ども未来基金全体に対して寄付を募ったとしても、寄付する側は自分が提供したお金が事業に活用されたというイメージが湧きにくいのではないかと考えます。文京区の子ども宅食では、クラウドファンディングを活用し、これまでで合計1億円以上の寄付を集めたそうです。クラウドファンディングの導入については、子ども未来基金全体というよりも、特に子ども食堂に限定して行ったほうが、寄付する側もイメージがしやすく、

より多くの寄付が得られるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

▲クラウドファンディングは、事業内容を具体的に明示した上で寄付を募るという点において、寄付者の意思を直接事業へ反映することができる有効な手法であると認識している。

市としてはこれまで、盛岡子ども未来基金における助成事業とクラウドファンディングを連動させることについて研究してきていることから、子ども食堂を含めた個別事業に対するクラウドファンディングの活用について、検討を進めてまいります。

2. 医療

④ヘルスケアポイント導入を提言、実施へ。

健康増進、介護予防に取り組む市民に対してポイントを付与するヘルスケアポイント制度の導入を推進。市では、健康づくりに取り組む皆様に応援するため、平成30年度から「もりおか健康得とくポイント事業」を開始しました。



MORIO-K カードにポイントが加算されます。

⑤脳ドック受診費用に対する助成を提言。

⑥盛岡市立病院の救急体制の整備を提言。

⑦中学3年生に対するピロリ菌検査の実施を要望。

3. 子ども・若者支援分野

⑧メール、SNS を利用した「いじめ対策」の前進。

議会において、いじめ相談におけるSNSやメールの活用を訴えてまいりました。教育委員会は現在、先行実施している自治体から対象者の範囲、相談日時、相談体制などについて情報を収集しながら、導入について調査、研究しているとの事です。いじめ防止のため

のSNSの活用は、子どもたちが気軽に相談できる機会を増やす事となるため、市では平成31年度に、まずはメールを活用した相談に試験的に取り組む事としております。

⑨起業家応援！ビジネスプラン発表会を提言。

起業家によるビジネスプラン、ビジネスモデル発表会の開催を提案。



3/13(水)プラザおでってビジネスプラン発表会

⑩介護士・保育士の奨学金返還支援を推進。

奨学金の返済を支援する制度について議会で訴えました。

- ⑪国の若者雇用促進法について取り上げ、若者に対する就職支援、盛岡への定住促進を訴えました。
- ⑫子ども未来基金を活用し、子ども食堂を立ち上げる団体へ財政支援を提言。
- ⑬子どもの貧困対策における全庁的な取り組みを訴え、子どもの貧困対策実効計画の策定を推進。
- ⑭子ども・若者のためのワンストップの相談窓口設置を提言。
- ⑮SNSを活用しての若者の就職支援、地元定着へのアピール、情報発信について提言。
- ⑯ひきこもりに対する支援を提言、モデル事業実施へ。
- ⑰スクールガードへの支援を訴えると共に、自らもスクールガードとして着任。
- ⑱フリースクールと教育委員会との連携を提言。

4. その他の実績・実行



- ⑲市内の無電柱化の推進(鉈屋町界限)H32年度中着工予定。
- ⑳インフラ施設を活用した「インフラツーリズム」の推進を提言。
- ㉑食品ロス削減の取り組みを提言。盛岡市役所にフードポスト設置を提案。
- ㉒期日前投票所の増設を提言し、実現。
- ㉓「子育て支援アプリ」の活用を提言。子ども未来基金を活用し、開発へ。
- ㉔「ボランティアポイント制度」の導入を提言。平成30年度より実施へ。
- ㉕「認知症カフェ」に対する支援について提言。